新たなスタートを迎えて



(財) 日本ハンドボール協会会長　渡邊 佳英

昨年度は、夏に北京オリンピック大会アジア予選が開催され、またしてもアンフェアな状況で大会が行われたことに大変悔しい思いをしました。そこで引続きわれわれ日本ハンドボール協会は、アジアハンドボールの正常化について国際ハンドボール連盟に訴え、支持を得ることが出来ました。そして国際ハンドボール連盟の要請により1月、北京オリンピック大会アジア予選再試合が男女とも東京・代々木で開催されました。マスメディアには連日のごとく取り上げられ、男子の試合にいたっては、代々木体育館が1万人のサポーターで埋め尽くされるほどでした。これらの状況は、日本ハンドボール界にとって、かつて経験したことがないものでした。結果については、またも韓国に敗れ、まだ世界最終予選が残されているものの、日本ハンドボール協会の最大の目標である「オリンピック常時出場、世界選手権常時出場、メダル獲得の実力をつけること」を達成するには至っていません。

この状況を「単なる話題」として終わらせないためにも、執行部は今まで以上に真剣に取り組まなければなりません。本年度はオリンピックイヤーであり、当稿が発行される頃には、女子の結果は出ている頃ではありますが、男女代表チームは、残されたオリンピック出場枠である世界最終予選に、日本ハンドボール協会の永年の夢の実現に向け、思う存分戦ってもらいたい次第です。

そこで本年度日本ハンドボール協会は、特に以下の内容について総力を挙げて活動していきます。

1. マーケティング内容の充実を図り、財政基盤の確立。
2. 事業を滞りなく実施するために、役員の育成と、協会の事務局体制の拡充・強化。
3. 各大会の「運営マニュアル」を充実させ、ファンを第一主義とした大会運営。
4. レフェリーの育成・指導による審判技術の向上。
5. 普及活動としては、「指導者育成事業」、「小学生・中学生大会の充実」、「ナショナルトレーニングシステムとの連携」、「マスターズ・車椅子大会の充実」、「女性委員会の促進」。
6. 「がんばれ10万人会」を次のステップへ。
7. 「JHAジュニアアカデミー」を設立し、各カテゴリーから常にNTC（ナショナル・トレーニング・センター：1年365日常時使用・宿泊が可能な施設）に集結させ、ジュニア層からの強化を加速。さらに代表チームは4年、8年後を見据えたスタッフの人選と、目標に向かって活動。
8. 国際活動については、「アジアの正常化」への努力が実り、突破口が開かれた。さらに粘り強い地道な努力と本年度に行われるAHFの役員改選に向けての積極的な活動。
9. マスコミ・HP・機関誌等、内外の広報活動の充実。
10. 日本リーグは国際競技力向上のベースであり、ハンドボールのトップゲームを数多くファンの前で披露し、「プロの興業集団」を目指す。
11. 環境委員会を中心に、環境問題にも積極的に取り組む。
12. 昨年立ち上げた総合企画室を中心に、全体の連携と協会の方針・目標の徹底のスピード化を図る。又、毎年定期的に国際試合「ジャパンカップ」を企画開催し、強化の一環とする。

本年度も皆様の幅広いご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

第13回 男子アジア選手権 (2009年男子世界選手権予選)

韓国が優勝、日本は7位に終わる

第13回男子アジア選手権は、2月17日（日）から26日（火）までの10日間、イラン・エスファファンで10か国が参加して行われた。日本はライバル韓国と同じ予選グループの第2戦で対戦、8点差で敗れると、以後の試合もなかなかリズムに乗れず、残念ながら予選グループ4位となり、7位－8位決定戦で中国を破ったものの第7位に終わった。決勝戦は韓国がクウェートを破って優勝。なお2009年1月16日から2月1日、クロアチアで開催される男子世界選手権には上位3か国（韓国、クウェート、サウジアラビア）が参加する。

■選手名簿

役職	氏名	所属
団長	市原　則之	（財）日本ハンドボール協会
総監督	蒲生　晴明	（財）日本ハンドボール協会
監督	酒巻　清治	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	佐藤　壮一郎	（財）日本ハンドボール協会
トレーナー	赤尾　和彦	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	沖本　信和	浜脇整形外科病院
分析	舎利弗　学	（財）日本ハンドボール協会

		氏名	所属	最終出身校
1	GK	四方　篤	Honda	大阪体育大学
2	GK	高木　尚	大同特殊鋼	日本体育大学
3	GK	志水　孝行	湧永製薬	大阪体育大学
4	CP	永島　英明	大崎電気	大阪体育大学
5	CP	東　慶一	湧永製薬	大阪体育大学
6	CP	前田　誠一	大崎電気	日本体育大学
7	CP	横地　康介	Honda	名城大学
8	CP	豊田　賢治	大崎電気	国士舘大学
9	CP	宮﨑　大輔	大崎電気	大分国際情報高等学校
10	CP	猪妻　正活	大崎電気	早稲田大学
11	CP	河瀬　豊	Honda	大阪体育大学
12	CP	末松　誠	大同特殊鋼	国士舘大学
13	CP	武田　享	大同特殊鋼	国士舘大学
14	CP	門山　哲也	トヨタ車体	日本大学
15	CP	富田　恭介	大同特殊鋼	中部大学
16	CP	東長濱　秀作	湧永製薬	日本体育大学
17	CP	海道　衛秀	トヨタ紡織九州	筑波大学

◆予選ラウンド第1日目：2月17日（日）

▼Aグループ

イラン　36（19－15、17－13）28　中国

クウェート　26（12－8、14－16）24　バーレーン

▼Bグループ

韓国　36（20－9、16－18）27　UAE

日本　28（13－14、15－14）28　サウジアラビア

〔戦評〕アジア正常化に向けた大事な開幕戦。日本のエース宮﨑のロングシュートがゴールに突き刺さる。サウジアラビアも負けじとサイドシュート、速攻、カットインシュートを狙うが、日本はGK高木のファインセーブでサウジアラビアの得点を防ぐ。日本は一気に流れを掴みたい所だが、5連続シュートミスなどでリズムに乗れない。一方でサウジアラビアは勢いを出し始め、日本は連続で退場者を出してしまい、サウジアラビアのエースに速攻で連続得点され、2点差とリードされる。日本は数的不利な状態を東、東長濱が得点してカバーし、2点差をキープ。日本はディフェンスを6－0にシステムチェンジし、安定感を取り戻し、河瀬の速攻などで1点差とし、前半を折り返す。

後半、日本は1人少ない状態からのスタート。サウジアラビアのエースにロングシュートなどを決められ、また、日本の連続シュートミスで、序盤、15対22と7点のリードを奪われる。そこで日本はルーキー海道を投入。海道の運動量から日本はリズムを取り戻し、四方の4連続阻止から、東の速攻、門山のカットインシュート、海道・末松の速攻で1点差まで追い上げる。ラスト2分、豊田のロングシュートで同点とするが、サウジアラビアも必死にポストプレーで応戦。残り1分、末松が同点のカットインシュートを決め、最後まで守り抜き、驚異的な粘りで開幕戦を引き分けに持ち込んだ。

【得点者】末松8、豊田・東5、富田・猪妻・門山・河瀬2、宮﨑・東長濱1

◆予選ラウンド第2日目：2月18日（月）

▼Aグループ

バーレーン　36（18－11、18－16）27　レバノン

クウェート　33（20－8、13－20）28　中国

▼Bグループ

カタール　30（15－17、15－12）29　UAE

韓国　33（18－12、15－13）25　日本

〔戦評〕決勝ラウンド1位通過を掛けた大一番。スタート日

本は、韓国の３－２－１ディフェンスのプレッシャーを受け、テクニックミスを連発。韓国は、パラレル攻撃からイ、ペクのロングシュートなどで６対２とリードを奪う。日本は落ち着きを取り戻し、東のポストプレー、豊田・門山のカットインシュートなどで６対９と追い上げる。しかしペクにロングシュートを決められ、また日本は退場者を出してしまい、６点差にリードを広げられる。日本は宮﨑のロングシュート、海道のサイドシュート、門山のロングシュートなどで再び12対15と詰め寄るが、ペクにシュートを決められ、退場者も出してしまい、前半６点差のビハインドで折り返す。

後半立ち上がり、韓国はテクニックミス、日本はシュートミスなどで点差は動かない。日本は悪いムードを末松のロングシュートや速攻などで流れを掴みたいところ。しかし韓国にロングシュート・サイドシュート・速攻などを決められ、リズムに乗ることができない。日本は最後まで末松・豊田・武田の速攻、海道のサイドシュートなどで点を取りにいくが、前半６点のビハインドがひびき、追い上げるにはいたらなかった。

【得点者】末松6、豊田・門山4、宮﨑3、東・海道2、富田・永島・武田・横地1

◆予選ラウンド第３日目：２月19日（火）

▼Aグループ
イラン 34（16－15、18－12）27 レバノン
▼Bグループ
サウジアラビア 31（17－12、14－16）28 カタール

◆予選ラウンド第４日目：２月20日（水）

▼Aグループ
クウェート 29（14－12、15－10）22 レバノン
バーレーン 35（17－15、18－14）29 中国
▼Bグループ
韓国 31（17－15、14－15）30 サウジアラビア
日本 44（21－17、23－10）27 UAE

〔戦評〕韓国vsサウジアラビアが１点差のため、決勝ラウンド進出に向け、快勝したいゲームである。立ち上がり、UAEにカットインシュートを決められる。しかし日本も末松のサイドシュートで追いつく。UAEは日本の３－２－１ディフェンスのスペースをうまくつき、7mスローやロングシュートで応戦。日本も積極的にシュートを狙い、門山のロングシュート、末松・富田の速攻とスピーディーな展開で仕掛けていく。中盤、UAEは日本の速い展開について来られず退場者を出すが、日本は数的有利な状態で失点しリズムに乗れない。しかし末松の7mスローで16対15と逆転すると、そこから門山・海道・富田の速攻と末松の残り３秒のロングシュートで４点差で前半を折り返す。

後半スタート、相手のミスをつき、門山のロングシュート、末松の速攻、宮﨑のカットインシュート、海道の速攻で27対19とスタートダッシュに成功。日本は四方のファインセーブから攻撃の手を緩めず、豊田・猪妻の速攻などでUAEを一蹴した。酒巻JAPANが目指すゲーム展開に持ち込んでの勝利であった。明日のカタール戦も自分たちの戦いに持ち込み快勝したい。

【得点者】末松13、門山7、豊田6、富田5、海道4、宮﨑・猪妻3、東2、東長濱1

◆予選ラウンド第５日目：２月21日（木）

▼Aグループ
バーレーン 33（12－20、21－12）32 イラン
▼Bグループ
カタール 32（11－17、21－14）31 日本

〔戦評〕決勝ラウンド進出に向けこのゲームに快勝し、サウジアラビアとの得失点差を広げたい。試合立ち上がり、日本は３－２－１ディフェンスで富田が積極的に動き、カタールのミスを誘い、宮﨑のロングシュート、末松のカットインシュート、武田の速攻などで４対０と幸先の良いスタートをきる。カタールはライン際のプレーをオーバーアクションで7mスローを誘い、追い上げを図る。日本も宮﨑のロングシュート、豊田の速攻、末松の速攻で流れを渡さず、10対６とリードする。しかし相手のラフプレーからか日本はシュートミスが続き、６点差から突き放すことができず、17対11で前半を折り返す。

後半スタート、お互いに退場者を出しながらの攻防が続く。日本は豊田の7mスローや門山・豊田のロングシュートで22対16と８点差とするが、途中、３人目の退場者を出してしまう。日本は退場対策で６－０ディフェンスにシステムチェンジするが、カタールのクロス攻撃からロングシュートを決められ、カタールが勢いをつけ、26対26と同点に追いつかれる。そこからは１点差の攻防が続き、カタールに退場者が出るも、日本は失点を抑えることができず、テクニカルミスから逆転を許し、大事な一戦を落としてしまった。

日本は予選リーグBグループ３位以下が決定した。

【得点者】末松13、豊田8、富田・宮﨑・東・武田・門山2

◆予選ラウンド第６日目：２月22日（金）

▼Aグループ
中国 28（16－14、12－13）27 レバノン
イラン 35（15－18、20－16）34 クウェート

【予選ラウンドA；最終順位】
1位 クウェート（3勝1敗）
2位 イラン（3勝1敗）
3位 バーレーン（3勝1敗）
4位 中国（1勝3敗）
5位 レバノン（4敗）

※クウェート・イラン・バーレーンは3勝1敗（勝ち点6）で並んだが、大会規定により、該当3チーム間の試合における得失点差により、上記順位が確定。
得失点；クウェート（＋1）、イラン（0）、バーレーン（－1）

▼Bグループ
サウジアラビア　31－26　UAE
韓国　31（14－9、17－14）23　カタール

【予選ラウンドB；最終順位】

1位	韓国	（4勝）
2位	サウジアラビア	（2勝1分1敗）
3位	カタール	（2勝2敗）
4位	日本	（1勝1分2敗）
5位	UAE	（4敗）

◆本戦ラウンド：2月24日（日）

▼9位－10位決定戦
UAE　38（20－12、18－13）25　レバノン
▼準決勝
クウェート　32（16－14、16－15）29　サウジアラビア
韓国　33（13－12、20－12）24　イラン

◆本戦ラウンド：2月25日（月）

▼5位－6位決定戦
カタール（カタールの不戦勝）バーレーン
▼7位－8位決定戦

日本　38（22－15、16－20）35　中国

〔戦評〕日本は立ち上がり、末松の速攻で先制するも、ミスからの速攻で4連取され、中国に1対4とリードを奪われる。日本はGK志水の好セーブで粘り、豊田のサイドシュート、末松の7mスロー、宮﨑のロングシュートで4対4と振り出しに戻す。中盤、中国のテクニックミスから門山・豊田の速攻、海道のロングシュート、富田の速攻で9対6とリードを奪う。終盤もGK志水のセーブから門山のポストシュート、猪妻のサイドシュート、宮﨑のロングシュート、永島のポストシュートと連続得点をし、7点のリードで前半を終える。

後半、日本は、シュートミスから得点を許し、26対23と3点差まで追い上げられる。日本は積極的にシュートを狙い、豊田の速攻、末松の7mスロー、富田の速攻、門山・海道のカットインシュートと攻撃の手を緩めず、3点差をキープするが、失点は止まらない。中盤、中国のテクニックミスをつき、富田のポストシュート、猪妻のカットインシュート、豊田のサイドシュート、武田の速攻で、35対30とリードを5点差とする。最後は単発シュートを決められるが、危なげない試合運びで最終戦を白星で飾ることができた。
【得点者】豊田・末松8、門山7、宮﨑5、富田・海道3、猪妻2、永島・武田1

◆本戦ラウンド：2月26日（火）

▼3位決定戦
サウジアラビア　24（13－12、11－11）23　イラン
▼決勝戦
韓国　27（15－9、12－12）21　クウェート

最終順位

1位	韓国
2位	クウェート
3位	サウジアラビア
4位	イラン
5位	カタール
6位	バーレーン
7位	**日本**
8位	中国
9位	UAE
10位	レバノン

ANA CUP 第32回日本ハンドボールリーグ女子プレーオフ

オムロン3連覇を飾る







総評

日本ハンドボールリーグ委員会委員長　田中　茂

平成19年度ANA CUP第32回日本ハンドボールリーグ女子プレーオフを平成20年2月16日・17日、大阪住吉スポーツセンターで開催いたしました。

今プレーオフは、女子北京オリンピック世界最終予選、女子代表強化期間、男子世界選手権アジア予選の開催日程が、日本リーグ開催期間中に開催される事もあり、今大会は男女別期間、別会場にて開催いたしました。

女子の単独開催でのプレーオフを成功させるためにも、企業、スポンサー、大阪ハンドボール協会、大阪市ハンドボール協会、関西学生ハンドボール連盟、また大会運営にご尽力いただいた関係の皆様、そして会場に足を運んでいただいた多くのサポーターの皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

多くのサポーターで埋まった試合会場、ハンドボールの面白さ、ダイナミックさ、素早さを北京オリンピック予選再試合で観戦、視聴された皆様も多く足を運んでいただき、大会を運営する側として「真のプロの運営を目指す」を目標に、チーム・運営側も一丸となって取り組んでまいりました。

プレーオフ史に残る決勝戦

今32回レギュラーシーズン1位「オムロン」2位「ソニーセミコンダクタ九州」3位「北國銀行」、この3チームはレギュラーシーズン中も大接戦を展開し、順位はついているもののプレーオフ、一発勝負の舞台ではどのチームが勝つか予想の付けにくい、実力拮抗、まさに展開が読めない戦いであったと思います。

準決勝、ソニー対北國銀行、両チーム共にスピーディーな展開から得点を重ねていく本来の自分たちの試合を展開、両チームエースの大活躍もありましたが、試合巧者のソニーが後半一気にスパートし勝利をつかみとりました。

決勝戦は、プレーオフ史に残る大激戦、両チームともに手の内を知り尽くしたチームだけに、早く試合のペースをつかんだチームが有利な展開と予想されたが、先にペースをつかんだ、オムロンに対し、ソニーは諦めることなく粘り強く追う展開、後半14分過ぎからソニー得意の速攻で一気にオムロンに追いつくあたりから、場内の観客も応援団もボルテージが上がり、会場がハンドボールの魅力に浸った試合展開であった。最後には最優秀選手賞をとった、藤井の強打、絶体絶命の7ｍスローを止めた勝田の気迫がオムロンに勝利をもたらした。

この結果、オムロンは日本リーグ3連覇に併せ、全日本実業団選手権、国体、全日本総合選手権も含め07～08シーズン4冠を31年ぶりに成し遂げた。

東アジアクラブ選手権

このプレーオフの結果、来年度4月に開催されます東アジアクラブ選手権（熊本県）に、優勝チーム　オムロン、2位　ソニーセミコンダクタ九州が出場権を獲得いたしました。東アジアクラブ選手権での活躍を期待します。

最後になりましたが、日本リーグとして今後も新しいものに取り組んで行き、ハンドボールの面白さを多くの皆様に観て頂ける環境を整えて行きたいと思っております。レギュラーシーズンを含めご協力いただきました、各開催地の皆様、運営関係者の皆様、ハンドボール発展のために今一度、ご指導、ご鞭撻、またご協力賜りますよう宜しくお願いいたします。ありがとうございました。

[戦 評]

▼準決勝

ソニーセミコンダクタ九州　31（13－12、18－11）23　北國銀行

『郭選手９得点の大活躍でソニー勝利！　決勝進出！』

レギュラーシーズンでは、ソニーセミコンダクタ九州は北國銀行に３勝しているがすべて１点差。両チームとも油断できない決戦である。北國のスローオフでプレーオフ準決勝の開始。1 分 30 秒に北國が 8 番小野澤の速攻で先制。その後、両チーム一進一退で得点を確実に加算するが、8 分過ぎからソニーが 2 度の 3 連取。前半 15 分にはソニーが 5 番田中のミドルシュートで 8 対 4 とリードする。北國も 4 番上町のロングシュートや 7mT で追い上げ、13 対 12 のソニーリードで前半を終了。

後半立ち上がり、ソニー 2 番郭のランニングシュートなど 17 対 13 とリード。北國も 4 番上町のカットインなど 3 連続得点で 17 対 16 と追い上げるが、ソニーは本日 9 得点をあげた 2 番郭の活躍や 15 番寺田のサイドシュートなどで、後半 22 分には 28 対 22 で 6 点のリード。その後、北國も必死に粘り強く対抗するも、ソニーペースは崩れず、31 対 23 で勝利し明日の決勝戦にコマを進めた。

▼決勝

オムロン　31（16－16、15－14）30　ソニーセミコンダクタ九州

『劇的な勝利、オムロン３連覇！』

ソニーセミコンダクタ九州のスローオフでプレーオフ決勝の開始。オムロンが 6 番吉田の 7mT で先制。その後、オムロンは固い守りからリズムをつくり、17 番東濱、20 番ルーキー藤井のカットインミドル、6 番吉田 7mT と着実に得点を重ね、前半 10 分で 7 対 3 とオムロンリード。ソニーもディフェンスでリズムをつかみ、8 番亀山、2 番郭の速攻などで 3 連取し、前半 15 分に 8 対 8 と追いつくが、オムロンもここから連続得点でリズムをつくり、前半 26 分で 15 対 12 の 3 点リードとなる。前半ラスト 3 分からソニーが 2 番郭のミドルなど食い下がり、前半終了間際、ソニー 5 番田中がシュートを決め追いつき、前半 16 対 16 で終了。

後半立ち上りから、オムロンペースで試合が展開され、後半 9 分で 23 対 18 の 5 点リード。しかしその後、オムロンは単調な攻撃で波に乗れず苦戦。一方ソニーは全員攻撃で波に乗り、後半 20 分で 26 対 26 の同点に追いつく。後半 22 分には、ソニー 15 番寺田のサイドシュートで逆転に成功、29 対 27 と 2 点をリードする。その後一進一退の攻防が続き、ラスト 30 秒でオムロン 20 番藤井のミドルシュートで、再度オムロンが逆転し 31 対 30 となる。終了間際、ソニーは 7mT を奪い、同点のチャンスとするも、オムロン GK 勝田がナイスセーブし試合は終了、オムロンが逃げ切った。プレーオフ決勝にふさわしい好ゲームであった。



第 32 回日本ハンドボールリーグ女子表彰選手

最優秀監督賞
　黄　慶泳（オムロン）３回目

最高殊勲選手賞
　藤井　紫緒（オムロン）初

殊勲選手賞
　郭　惠静（ソニーセミコンダクタ九州）初

得点王
　郭　惠静（ソニーセミコンダクタ九州）145 点　4 回目

フィールド得点賞
　郭　惠静（ソニーセミコンダクタ九州）118 点　5 回目

シュート率賞
　横嶋　かおる（北國銀行）0.727　初

７mスロー得点賞
　吉田　祥子（オムロン）57 点　3 回目

７mスロー阻止率賞
　飛田　季実子（ソニーセミコンダクタ九州）
　0.433（13/30）2 回目

最優秀選手賞
　郭　惠静（ソニーセミコンダクタ九州）初

最優秀新人賞
　植垣　暁恵（広島メイプルレッズ）

ベストセブン
　ＧＫ　飛田　季実子（ソニーセミコンダクタ九州）２回目
　ＣＰ　洪　廷昊（オムロン）初
　佐久川ひとみ（オムロン）７回目
　横嶋　かおる（北國銀行）初
　上町　史織（北國銀行）初
　郭　惠静（ソニーセミコンダクタ九州）４回目
　田中　美音子（ソニーセミコンダクタ九州）11 回目

ベストディフェンダー賞
　巻　加理奈（オムロン）初

フェアプレー賞
　ＨＣ名古屋　118 点／ 15 試合（7.9 点／試合）







第32回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了（平成20年2月3日）

順位		オムロン	ソニー	北國銀行	メイプル	三　重	HC名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	オムロン		25 33 29 ○○● 24 29 37	24 35 20 ○○● 19 27 29	26 29 36 ○○○ 24 25 34	27 31 34 ○○○ 13 15 18	31 26 29 ○○○ 12 19 20	15	13	0	2	435	345	90	26
2.	ソニー セミコンダクタ 九州	29 24 37 ●●○ 33 25 29		22 36 27 ○○○ 21 35 26	29 35 27 ●○○ 32 24 25	28 39 33 ○○○ 25 24 23	34 35 46 ○○○ 16 14 18	15	12	0	3	481	370	111	24
3.	北國銀行	27 19 29 ●●○ 35 24 20	35 21 26 ●●● 36 22 27		40 27 27 ○○○ 20 26 22	31 30 24 ○○○ 23 15 17	31 34 32 ○○○ 19 18 12	15	10	0	5	433	336	97	20
4.	広島 メイプルレッズ	25 24 34 ●●● 29 26 36	24 32 25 ●○● 35 29 27	26 20 22 ●●● 27 40 27		24 31 33 △○○ 24 14 30	33 29 29 ○○○ 15 19 26	15	6	1	8	411	404	7	13
5.	三重 バイオレット アイリス	15 13 18 ●●● 31 27 34	24 25 23 ●●● 39 28 33	15 23 17 ●●● 30 31 24	14 24 30 ●△● 31 24 33		27 20 25 ○○○ 20 16 16	15	3	1	11	313	417	-104	7
6.	HC名古屋	19 12 20 ●●● 26 31 29	14 16 18 ●●● 35 34 46	18 19 12 ●●● 34 31 32	19 15 26 ●●● 29 33 29	16 20 16 ●●● 20 27 25		15	0	0	15	260	461	-201	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表し、左がホーム、中がアウェイ、右が第3地域の結果を表す。

女子プレーオフ決勝　観客席でのインタビュー

インタビュー内容

1．職業（学校）、お住まいの県、年齢
2．観戦のきっかけは？
3．誰と一緒に来たのか？
4．どちらのチーム、選手を応援しますか？
5．この1年間で日本リーグの試合に何試合足を運びましたか？
6．その他

1．大阪市立住吉第一中学校女子ハンドボール部の皆さん、大阪府、10代
2．先生に勧められたから
3．チームメイト14名と
4．オムロン
5．2、3試合。昨年11月にも見に来ました。
6．3月の春中に出場します。頑張ります。

1．堺市立浜寺中学校男子ハンドボール部の皆さん、大阪府、10代
2．先生に言われたから
3．チーム全員10名で
4．どちらも応援します
5．今日で3回目です
6．昨日のソニーセミコンダクタ九州（以下ソニーと略す）対北國銀行は面白かった。チームプレーが多いのに驚いた。大崎電気の宮崎選手を見たい。

1．岸和田市立岸城中学校女子ハンドボール部の皆さん、大阪府、10代
2．先生に言われたから
3．部員14人で来ました
4．今日はソニーを応援します。好きな選手はオムロンの勝田選手、巻選手
5．今日で4回目です
6．日本リーグの試合は驚きの連続です。パスミスがないし、ありえないプレーも多く、素晴らしい。

1．四天王寺高校ハンドボール部の皆さん、大阪府、10代
2．プレーオフ決勝に出場する卒業生の田中先輩、東先輩の応援に来ました。
3．部員22名で来ました
4．両先輩のいるソニーです
5．2試合です
6．3月の全国高校ハンドボール選抜大会に参加します。

1．教員、熊本、60代
2．教え子が出場するので
3．3人で
4．オムロン（特に水野選手と勝田選手）
5．3試合程度です

1．主婦、大阪府、60代
2．息子がチーム役員を務めており、その応援です
3．家族6人
4．ソニー。メンバー全員を応援します
5．ソニーの試合はすべて
6．ハンドボールの観戦と応援のために年間100万円以上使っています。今期のプレーオフは男女別々の開催だが、見る方の立場を言えば来年は一緒にやって欲しい。

1．会社員、東京都、40代
2．鹿児島県出身で郷土のチーム応援のために東京から来ました
3．同じ九州出身者と2名で
4．ソニー。東、樋口、飛田の3選手
5．5試合
6．東京から時間とお金を掛けて来ました。いい試合を期待します。

1．会社員、滋賀県、40代
2．ハンドボール愛好者です
3．ひとりで
4．ソニー、郭選手
5．5試合
6．北京オリンピックに行けるよう、頑張ってください。

試合終了後の感想は「大接戦に大満足」、「ソニーが負けて残念だが、勝ったオムロンを誉めるべき」、「すごい試合、超々面白かった」、「スピード感あふれ、どちらに勝敗がころぶか分からないゲーム、大いに楽しめた」、「ハラハラ、ドキドキの連続でした」、「感動の一語」、「東京から交通費を払ってきただけの値打ちがあった」等々とあり、これらは決勝に相応しい、素晴らしい試合内容を物語っていた。

女子

オリンピックアジア予選再試合を振返り

女子日本代表監督　ベルト バウワー

まず初めに、カザフスタンで行われたアジア予選のやり直しをIHFが決定したのは、大変嬉しかったと申し上げたい。

レフェリーの不公平な判定によるものだけでなく、将来のために世界選手権の1位から12位と、12位から24位チームの真の違いを見極めなくてはならない。

●先ず私にとって、明らかに2つの大きな違いがあった。

1：フィジカル

韓国選手たちは､総体的に非常に頑強な骨格の体格である。要するに、すべてにおいて発達した力を発揮する。又、身長も平均的に日本より高い。一方、日本人選手たちは、脚力はよくトレーニングされているが前頭筋や、とくに肩の力は充分ではない。

2：メンタル

韓国チームは、長期にわたって（海外または重要な）試合経験が豊富である。すでに20年以上、オリンピックレベルの試合をしている。これは文化の違いである。そのため、彼らはメディアや国の期待を背負うプレッシャーを充分経験している。日本にはこの経験がなく、精神的に大きな影響があった。特に、メディアの出現は大きな影響を及ぼした。

ハイレベルでもっとプレッシャーの掛かる試合をより多くこなすことで、選手たちはより多くのことを経験する。

私が思うに、日本リーグはこのプレッシャーを与えるに充分な強さはない。

●更に、ハンドボールの仕組みや試合の流れについて、ゲームを4つの部分に分けて考える。

1：ディフェンス

- ディフェンスの仕組みは良かったが、ボールの運び方でフィジカル面に大きな問題があった。
- ボールを奪うべく対戦相手の前で腕を振り回している。
- 1対1でディフェンスとディフェンスの間に割り入ろうとする選手に対抗する体重がない。
- 試合を読むのもまた、得意としていない。但し、ハイレベルな試合をすることで経験となる。
- 日本リーグでは、韓国出身の選手たちが驚くようなシュートを放つ。

つまり、これらの技術が多く使われないなら（これらに対抗する）ディフェンスの技術も必要ない。日本チームにとって、接触プレーがもっとも大きな問題である。（日本）リーグでの接触と、世界選手権やアジア予選のディフェンスは非常に違いが大きい。フランスで開催された世界選手権でのハンガリーとコンゴ戦で、このような経験をした。

2：ファースト･ブレイクと二次速攻

日本チームにとって得意とするもののひとつである。仕組みとシステムは有効で、ウィットに富んだ多くの可能性を持つ。

仕組み（誰しもが役割を認識している）とスピードが基本である。バックプレーヤーと速いウィングのクロスにより多くの結果をもたらす。

3：アタック

アタックについても仕組みは良好でアイディアも良かった。世界選手権での有効な試合方法によって、他のコーチたちの様々なリアクションを得た。ただ、（体重差がないので割り込めず）ディフェンスから離れてシュートをするのでパワーを失った。又、シュートにバリエーションがないのも問題である。ウィングがうまくシュートを決めるのは、接触する選手がいない時だけであり、有効なスペースを作っていない。

ゴールキーパーについてもより多くの技術的な問題がある。これは説明が非常に難しいのだが、選手のシュートを分析して試合でスタイルを変更する経験が必要である。

韓国戦について言えば、日本の選手にとって積極果敢なディフェンスやプレッシャーは非常に大きな問題であった。

4：ルーズボールとディフェンス（攻守の切り替え）

攻守は素早く6mラインからアタックするには充分な強さはなかった。又、ディフェンスの切り替えはいくつかの小さな問題があった。なぜなら、すべての選手が攻守にわたって良かったわけではなく、彼女らを交代させなくてはならなかった。

●総合的に言えば、日本がオリンピック出場権を得るためにはいくつか検討しなくてはならない。

- より多くのパワー・トレーニング（週3回）一年中とより一層の筋力トレーニング
- シュートのバリエーションを増やし、接触プレーに強くなる（かわす技術）
- ゲーム形式のトレーニング（1対1、2対2、3対3、4対4）
- 攻撃（突破）するトレーニング
- コーチが求める考えだけでなく（もっと対話をして）選手自身が責任を持って試合に臨むこと
- 大学出身の選手が古い教えを受けていては、新しいことを学ぶことができない。

等…すべてのハンドボール関係者は、オリンピック出場するため、大学、クラブ、日本協会が一緒になった長期計画（ビジョン、スキル、モチベーション、献身等）が必要である。

アジア予選（再試合）

男子

代々木にて

男子日本代表監督　酒巻 清治

2007年12月、突然の予選再試合の報をうけ日本協会・蒲生強化本部長より、臨戦態勢へ向けての監督就任の要請を受けました。私自身はトヨタ車体チームの監督でもありましたが、会社からの迅速な対応、JHL各チームからの選手派遣など各方面からの絶大なるサポートを頂き、1月4日トヨタ車体吉原体育館にて来る日の決戦に向け代表合宿をスタートすることが出来ました。オリンピック予選再試合という前代未聞の一大事ということであったため、マスメディアの関心は高く、合宿初日から数十社の報道陣や多数の一般見学者らの訪問を受け、異様な雰囲気の中強化が進められていきました。

代表チームの活動は2007年9月に豊田市で行なわれた予選を最後に活動を中断しており、代表監督としての初仕事としてメンバーの選考を行なわなければならなかったわけですが、私自身トヨタ車体の監督としてシーズンを戦ってきたこともあり、国内の主要大会はスカウティング済みではありました。その中から選考基準として最優先に掲げたのは、各チームのトップ選手として攻守にわたって活躍していること、次にゲームの局面で勝敗を決めるプレーを実践していること、最後に自己の感情をストレートに表現できること（ある意味無邪気にプレーに没頭できること)。この3点に絞って25名の選手を選出いたしました。選手たちの表情は一点の曇りもなく、「Yes」の即答、彼らも「日本の緊急事態」をよく理解してくれていました。

いよいよ勝負のはじまりです。まず対戦が予測されるチームの分析からスタートしなければなりません。9月以降の情報収集はなく（韓国のユン選手に対してはドイツブンデスリーガ・ハンブルグでのゲームは入手していましたが…）分析対象となるのは9月の予選が直近ということになります。まずは中東勢、20年ほど前からヨーロッパの「名将」を監督として招聘してきた歴史があり、彼らが残した情報の蓄積がどのようなものかある程度の把握は必要でした。予想通り、各国それなりの特色があり、今回勝つことが出来たとしても将来的に「脅威」を感じるパフォーマンスを発揮していました。次に韓国、強力なバックプレーヤー陣にスピーディーなサイドプレーヤー、堅実なGKとやはり強敵であることには変わりありません。いずれのチームも「急造」の我々が対戦するにも容易くない相手には違いありません。しかしながら、我々にはリマニッチJapanが戦った戦歴がありました。この戦いに挑むにたり、リマニッチJapanのチーム戦術の「財産」からはチームの方針を決める私の決断に大きな手がかりを頂きました。もちろん多少の修正は致しましたが、中東勢のウィークや韓国・ユン選手への対応には大変参考になりました。ゲームの構成は攻守の切り替えの速い展開に持ち込む。これは今回用の特別な戦法ではなく、日本人が保有する「機動力」は大きな武器であります。攻守の核について、ディフェンスシステムは2つのタイプ、攻撃陣には対6：0、3：2：1、宮﨑へのマンツーマン対策など、相手DFの変化に対応できる機動力のある布陣を、ということを考慮し試行錯誤を重ねながらチーム作りを進めました。車体と紡織での合宿を消化し、大会直前をどこで行なうか迷っていたところ思わぬ朗報が飛び込んできました。日本のアスリートの悲願であるナショナル・トレーニングセンター（NTC）が完成しており、運よく利用団体第1号としてNTCを活用できることになったのです。施設の詳細説明は省きますが、なんとも素晴らしい施設で、心置きなく強化に専念できました。

中東勢が大会をボイコットする中、フェアプレーを取り戻すための戦いが韓国との間で開始されました。結果についてはご承知のとおりです。敗戦のポイントは、2つあります。

1つは、後半DFシステムの変更を私が手間取ったこと。2つ目はユン選手の攻撃力を封じることに意識が向きすぎ、彼の「支配力」への対応が遅れてしまったこと。ともにリーダーである私の「判断」が遅れたところにあり、大声援を頂きながらご期待いただいた結果を残せず大変申し訳なく、痛恨の念に耐えません。

しかし、加熱する報道、チームへの期待感、など選手たちは今まで経験したことのない状況のなか「戦う姿勢」だけは表現してくれたのではないでしょうか。同時期、ノルウェーで行なわれていた欧州選手権の映像が届きました。まさしく世界のTopの戦いというのは、あの「代々木」が常の状態です。日本人選手の可能性を感じずにはいられません。

最後に、今大会の活動に際して、日本協会、協会事務局、代表チームスタッフ、各チーム監督、報道関係各社、選手の背中を押すため代々木に集結してくれたファンの皆さん、絶大なるご支援、ご声援を頂き誠に有難うございました。「夢」未だ途中です。今後とも「JAPAN」にご声援宜しくお願いいたします。



北京オリンピックアジア予選再試合分析報告 男子

北京オリンピック男子アジア予選再試合 日本代表（分析担当） 舎利弗　学（学校法人福島高等学校）



はじめに

2007年12月17日、前代未聞のオリンピック予選再試合の決定が下り、昨年末、日本代表男子チーム監督に酒巻清治氏が就任した。短い準備期間を経て、2008年1月30日東京・国立代々木体育館において北京オリンピックアジア男子予選再試合が開催された。日本と韓国の一騎打ちでゲームを行い、日本は勝者にのみ与えられるオリンピック出場の切符獲得を目指した。

結果は、既知の通り韓国が勝利を収め、オリンピック出場の切符を獲得し、日本球界の悲願であるオリンピック出場は、今年の5月に行われる世界最終予選へ持ち越しとなった。

今回は、標記大会の分析活動を報告する。

分析結果報告

1．日本と韓国の定量データ比較（表1より）

- 今大会、攻撃回数は平均52回であり、アップテンポなゲーム展開ではなかった。
- 攻撃回数の減少により、両チームとも20点台で勝敗が決していた。
- JPNは、前半テクニックミスの発生が多く、逆にKORはミスが少なかった（JPN 8本、KOR 2本）。
- JPNは後半のGKセーブ率が低く、KORの後半はGKセーブ率が高かった。（後半JPN22%、KOR42%）
- 日本が得点したケースのフィニッシュのパターンでは、FBが16%（4点／25点・QSを含む）と低い割合であった。ハイスピードなゲーム展開ではなかった。
- 失点したケースの割合は、昨年9月の予選では全失点の43%（13点／30点）をDSが占めていたが、今回DSによる失点は29%（8点／28点）に抑えた。韓国は強力なシューターを擁するため、事前に対策を立てて臨み、結果的にDSで失点するケースを低く抑えた。



- 9月の予選と比べサイドシュートによる失点の割合が22%と大きくなった（6点／28点）（前回大会17%）。
- 後半JPNはシュート到達率は上昇したが（前半64%→後半89%）、シュート成功率が低下した（前半65%→後半56%）。一方、KORは後半シュート到達率は低下したが（前半92%→後半69%）、シュート成功率は上昇した（前半58%→後半70%）。
- 総体的にデータ上では、ほぼ互角であり、どちらが勝利を収めても不思議ではないゲームであった。

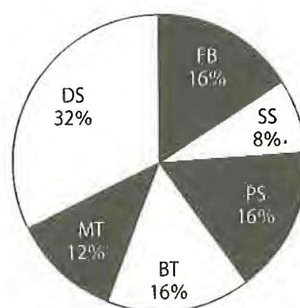


図1 日本得点パターン（25点）

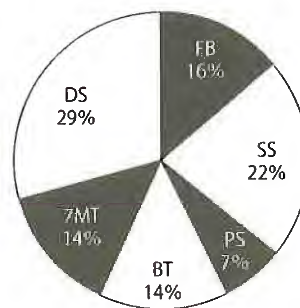


図2 日本失点パターン（28点）



表１．定量データ（日本 vs 韓国）

	JPN				KOR				合計			
	前半		後半		前半		後半		JPN		KOR	
攻撃回数	25		27		26		26		52		52	
得点	11		14		14		14		25		28	
攻撃成功率	44%		52%		54%		54%		48%		54%	
シュート	得点	本数	得点	本数	得点	本数	得点	本数	得点	本数	得点	本数
CS FB	1	1	3	4	3	4	1	1	4	5	4	5
SS	2	2	0	2	3	7	3	4	2	4	6	11
PS	2	2	2	2	1	2	1	1	4	4	2	3
BT	2	3	2	3	3	4	1	1	4	6	4	5
7MT	2	2	1	1	2	2	2	3	3	3	4	5
小計	9	10	8	12	12	19	8	10	17	22	20	29
DS	2	7	6	13	2	5	6	10	8	20	8	15
全シュート	11	17	14	25	14	24	14	20	25	42	28	44
枠内シュート	16		24		24		18		40		42	
シュート到達率	64%		89%		92%		69%		77%		81%	
シュート成功率	65%		56%		58%		70%		60%		64%	
ミス本数	8		2		2		6		10		8	
ミス発生率	32%		7%		8%		23%		19%		15%	
DF 成功率（セット 6vs6）	11	20	8	19	9	18	9	18	19	39	18	36
	55%		42%		50%		50%		49%		50%	
DF 成功率（セット 6vs5）	0	1	1	1	1	2	1	1	1	2	2	3
	0%		100%		50%		100%		50%		67%	
OF 成功率 (セット 6vs5)	0	1	0	1	2	2	1	3	0	2	3	5
	0%		0%		100%		33%		0%		60%	
逆速攻失点	3		1		1		3		4		4	
相手シュート（枠内）	阻止数	本数	阻止数	本数	阻止数	本数	阻止数	本数	阻止数	本数	阻止数	本数
CS FB	1	4	0	1	0	1	1	4	1	5	1	5
SS	4	7	1	4	0	2	2	2	5	11	2	4
PS	1	2	0	1	0	2	0	2	1	3	0	4
BT	1	4	0	1	1	3	1	3	1	5	2	6
7MT	0	2	1	3	0	2	0	1	1	5	0	3
小計	7	19	2	10	1	10	4	12	9	29	5	22
DS	3	5	2	8	4	6	6	12	5	13	10	18
全相手シュート（枠内）	10	24	4	18	5	16	10	24	14	42	15	40
GK 阻止率	42%		22%		31%		42%		33%		38%	

FB…ファーストブレイク、SS…サイドシュート、PS…ポストシュート、BT…ブレイクスルー、
7MT…7m スロー、DS…ディスタンスシュート

平成20年度 事業計画

平成20年4月1日　　（財）日本ハンドボール協会

1．普及･指導に関する事業

≪普及関係≫

【基本方針】

1．少年チームの増加促進
2．指導要領取り入れへの働きかけ
3．中体連との連携強化
4．生涯ハンドボール体系の確立
5．ビーチ国内大会開催地の拡大

【重点施策】

1．市町での少年チーム交流大会の促進
2．指導者育成と研修体制の充実
3．中学校チームへの指導資料提示、個人登録の徹底
4．ブロックマスターズ大会の実施とスポーツマスターズへの分離参加検討
5．ビーチハンドボール全日本代表選手の定義と選考基準の明確化
審判講習会の開催

≪指導関係≫

【基本方針】

1．指導者の育成(各指導員養成の推進)
2．海外情報収集（海外派遣選手団等より）
3．NTSとの連携
4．指導教本の作成

【重点施策】

1．公認コーチ専門講習会
2．NTSブロック・センタートレーニングの実施
3．公認指導者組織の整備
4．U－19までの指導体系の確立
5．ハンドボール指導理念の確立

2．競技運営に関する事業

【基本方針】

1．日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる
2．大会システムの再編を企画する
3．日本体育協会との連携を保ち、国民体育大会の改革に対応するための整備を図る

【重点施策】

1．日本協会主催、共催大会及び国際大会の運営にあたり、主管団体との調整を図った組織的運営にあたる
2．競技役員の資質向上を目指し、養成を図るとともに、競技運営マニュアルの改訂を図り、共通理解を深める
3．競技用具の改良を目指し、製造業者と懇談をする
4．証紙、検定証、証布が適正に貼付されているか、継続的な抜き打ち検査を実施する
5．競技者登録人口として10万人登録を目標とする

3．国際に関する事業

【基本方針】

1．世界各国のハンドボール連盟との連携と貢献
2．日本ハンドボール協会および連盟やチームなどの国際的活動支援
3．国際大会等の支援（連絡・交渉・情報収集）
4．国際会議への参加と支援

【重点施策】

1．アジアハンドボール連盟主催大会の正常化
（1）アンフェアな運営をなくすためにIHF管理の下で実施するための諸施策の推進・策定
（2）東アジア連盟主催の公式試合・会議などの支援
（3）東南アジア・南アジア諸国との連携とそのサポート
（4）アジア連盟選挙策と諸会議への参加とそのサポート
2．IHF・AHFとの連携と諸会議への出席
3．日本代表チームなどの海外国際大会の事務的なサポート
4．国際会議の開催と支援
5．外国の情報収集とその活用
6．海外移籍の事務的サポート

4．競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】

1．競技規則の正しい運用
（1）「審判員の目標」の徹底
（2）IHF作成のDVDとレフェリー指導者に配布したDVD等を活用させる
2．トップレフェリーの資質の向上
全国大会だけでなく各地区の試合に間に合うように研修会時期の検討
（1）都道府県審判長会議を4月に、トップレフェリー会議を2・3月に開催する
（2）IHF・AHFの講習会にコンチネンタルレフェリーを参加
3．オーダーメイドの審判指導
（1）審判員評価の活用
（2）競技規則必携の活用
（3）YRP（ヤングレフェリープロジェクト）の実質的な運用（NTSとの連携）

【重点施策】

1．都道府県審判長会議を年度当初の少しでも早い時期に開催する
4月から各地で大会が始まるが、年度当初にレフェリーを直接集めることが出来ないので、審判長を集め指導内容を徹底する
2．トップレフェリー会期変更
トップレフェリー会議を全国大会前ではなく、4月の各地区大会に間に合うように2・3月に移行する。
3．レフェリー講習会の内容充実、正しい運用の意識付け
レフェリーだけでなくトレーナー、選手にもルールを意識させる。各地区のレフェリー講習会にはトレーナー、選手も参加できることを知らせる。
4．審判員登録の徹底
5．YRP出身レフェリーの積極的起用

5．競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】

1．「北京オリンピック出場へアジア予選再試合と最終予選突破」
2．「2012ロンドン・2016東京オリンピック出場：上位入賞メダルへ挑戦」本気で出場する気構え！
3．オリンピック出場のための代表およびジュニア層の強化と同時に、協会に関して「構造改革」を継続して実施する。平成20年度は、北京オリンピックでの上位進出と男女代表チームが最終予選に回った場合、IHF最終予選が開催されるので、重点強化を実施する。

NTSをシステムとして「発掘・育成・強化・指導」について、競技者育成技術委員会を調整機関として、各委員会とセクションを超えた協力体制をとって、将来にわたりオリンピック・世界選手権に出場できる体制を推進していく。以上を強化連携していくためのサポートを実施する。

【重点施策】

1．男女日本代表チームの特別強化施策実施（北京オリンピック出場権獲得あるいは最終予選出場権獲得が条件）

2．2012ロンドン・2016東京オリンピックを目指したジュニア層の重点強化

【ナショナルトレセンを利用したアカデミー（代表選手の集約と育成）検討】

(1) 男女ジュニアチームの専任コーチ配置とその環境の確保

(2) 定期的な海外遠征と国内強化合宿の実施

(3) 所属チームの訪問と連携

(4) 徹底的な体力向上

(5) 栄養管理の指導とその実戦

3．ナショナルスタッフチームの発掘強化育成

トップコーチの発掘育成（海外研修・トップコーチセミナー）と就業サポート検討

4．NTSと連携して、選手の選考方法の再構築と年齢カテゴリー別チーム体制継続

(1) 日本の弱点である体格を補うための発掘施策検討構築実施（地域のタレント発掘との連携）

(2) 少数精鋭・重点強化体制の着実な運営

5．日本リーグチームとの連携強化

6．情報・科学サポート

7．医事専門委員会のサポート

8．アンチドーピングの徹底

6．機関誌発行に関する事業

【基本方針】

機関誌発行を通じ、日本協会全体の情報を共有化し、全国のハンドボール関係者の意識の統一を図り、ハンドボール界の発展に寄与する。

【重点施策】

1．IHF・AHF・EAHF情報のタイムリーな提供、協会の方針、理事会・各委員会・の協会活動の情報発信、各連盟・都道府県協会情報提供等を掲載する

2．企画記事として、一定の枠を確保し自らの取材・校正による記事の出来る体制を検討する

3．インターネット情報との密接な連携を図り、相互の情報を高めることで記事の質の向上に取り組む

4．今後の世情も踏まえ機関誌のあり方を見直し、機関誌発行回数と発行対象者を再確認し、一層の内容の充実について検討する

5．「世界を奪い返す」をメインテーマに、日本協会全体の考え・動きを伝える

7．企画に関する事業

【基本方針】

1．日本協会の有姿を想定し、具体的活動を示す

2．中長期的観点からの全体最適を常に考える

3．組織としての行動力、スピード、柔軟性を発揮する

4．業務取り組み姿勢として、経営観、事業観を意識する

5．協会の社会的責任を常に意識した対応を図る

6．各本部、各プロジェクトに共通し、統合して考えねばならない問題点の抽出とまとめを行う

【重点施策】

1．人材基盤、業務基盤、総合インフラ整備

(1) 各事業部や機能部門に対し、組織横断的条件整備（人事、財務、経営情報、管理指導、業務プロセス等）

(2) 総合インフラ（情報システム等）整備

(3) 強化に関しての大会企画

2．具体策

(1) 財務体質改善の具体策作成

(2) 強化の具体策（奨学金制度、強化システム、日本リーグ連携）

(3) 人材確保対策（全国、国際的人材）

(4) ジャパンカップの常設を企画

8．広報に関する事業

≪広報事業≫

【基本方針】

1．ハンドボール情報の発信の拡大を図る

2．協会広報システムを構築し、スムースな運営を図る

3．マスコミとの交流を拡大する

4．インターネット情報の充実・拡大を図る

5．協会事業の周知徹底を図る

6．記録整備のため大会撮影を積極的に行う

【重点施策】

1．年間活動計画を作成し、実施する

2．過去の記録をデジタル化する

3．ホームページの内容の充実を図る（日本協会・日本リーグ）

4．マスコミとの交流を密にする

・記者発表・記者会見・プレスリリース・定期懇談会の実施、回数アップ

5．トップリーグ連携機構との連携を図り、共同で活動する

6．インターネットと機関誌の連携・整備を行い、内容の充実と効率のよい広報活動を行う

7．協会内組織の充実（担当者の複数化・役割分担）

≪インターネット≫

【基本方針】

1．日本協会より発信すべきハンドボール情報を、インターネットを通じて一般の愛好者へタイムリーに発信する

2．インターネットを活用した情報提供の充実を図るとともに、作業の効率化・スピードアップ・情報量の拡大を図る

3．新たな情報発信・円滑な運用のための体制づくりを確立する

【重点施策】

1．日本協会ホームページの充実

(1) 試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実

(2) 試合結果速報用掲示板の運用

(3) 新たな情報発信方法の検討と試行（携帯サイトの立ち上げの検討と試行）

2．ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり

・より良いシステムの検討、人材の補強等

9．財務・会計に関する事業

【基本方針】

平成20年度も、平成19年度に引き続き財政状況を取り巻く環境は、厳しい状況にあり、縮小均衡を前提に緊縮財政を取り組まなければならない状態である。収入面ではマーケティング委員会が中心となるのはもちろんである

が、各委員会でも積極的に財源確保に取り組む必要がある。支出面においては、集中と選択を念頭におき、更に効率の良い運営を推進して行く。
また、ロンドンオリンピックに出場するための施策として、アジア予選の日本開催を見据え、財源確保に取り組んで行く。

【重点施策】
1．マーケティング委員会、各委員会を中心とした各種運営費の財源確保
2．ロンドンオリンピックアジア予選、日本開催誘致、運営に向けた財源確保
3．ロンドンオリンピック出場に向けた応援キャンペーンの推進。

10. 日本リーグに関する事業

【基本方針】
1．地域と共に発展する日本リーグを目指す
2．普及活動への連携支援を行う
3．国際競技力向上への強化活動を全面的にバックアップする
4．日本リーグ中期ビジョンをさらに具体化する
5．メディア対策をさらに充実させる

【重点施策】
1．事業力・興行力アップの更なる充実を図る
2．財政の充実を図る（収益力をアップさせる）
3．日本リーグトータルシステムの更なる充実（地域リーグ・都道府県リーグ）
4．開催地責任者研修会の充実
5．研修会の充実
6．審判の確保・育成（チーム審判制度、若手審判育成、全審判の研修）
7．リーグ活性化活動の充実を図る
8．日本リーグファンサービスの充実（新たなファンサービスを行う）
9．日本リーグチーム力アップに取り組む（人材確保・指導者養成等）
10．ナショナル活動に強力バックアップを行う
11．メディアへの露出の充実

11. 総務に関する事業

【基本方針】
平成20年12月1日から施行される新公益財団法人へのスムーズな移行を図ると共に、事務局のパワーアップを図り総務委員会案件はもとより、他委員会案件の積極的なサポートを行い事業進捗のスピード化を図る。

【重点施策】
1．公益財団法人への移行を踏まえた事務機構の見直し
2．事務局のパワーアップ化（人員、役割等々）
3．記録の整理・充実
4．環境保全への積極的な啓蒙と実践活動
5．個人情報保護法の遵守と徹底

12. マーケティングに関する事業

【基本方針】
日本ハンドボール協会の持っているバリュー（価値）の分析を行い、日本協会の収入の大きな柱であるマーケティング収入の確保を図る。マーケティング収入の確保のため、既協賛企業はもとより新規企業の開拓、各本部のプロジェクトの事業化を進める。また、それに伴う諸規程、諸ルールの整備を行う。

【重点施策】
1．事務局の専門事務局員を置く
2．オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大に取り組む
3．協賛企業の確保と拡大を行う（既協賛企業、新規協賛企業）
4．スポンサー感謝の集いを企画する
5．マーケティング収入を2,500万円とする
(1) 協賛金（大会事業、オフィシャルスポンサー）
(2) ナショナルユニフォーム広告他
(3) 物品販売、その他
6．オリジナルグッズ、DVD他の企画を行う
7．肖像権、ユニフォーム、ボード広告等の諸規程の整備を行う
8．協会協賛キットの改訂版を作る
9．協賛主催大会のマーケティングを主管部門に指導し協賛金の拡大推進を図る
10．JOC、トップリーグ連携機構とのマーケティングと連携・協力をして、マーケティング力の向上に努める
11．外部メンバーを導入し、マーケティング力向上を図る

13.『がんばれ10万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】
「がんばれハンドボール10万人会」におけるサポート会の拡大・規約の見直し・活動の再検討等を考慮し、日本協会と都道府県協会と連携し、サポート会の組織化を図り、サポート会へのサービスを拡大する。

【重点施策】
1．都道府県協会サポート会を全国組織にすると共に都道府県協会において、ファミリー・グループ会員の促進を図る
2．会員への情報・サービスを拡大する
3．日本代表選手の家族、OB、OGのグランド会員入会を促進する

平成20年（2008年）度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	開催場所
4月	※第5回東アジアクラブ選手権（男・女）	4/4（金）－4/6（日）	日本・熊本県	日本リーグ男女優勝チームと開催地（日本）男女1チーム
5月	※北京オリンピックIHF予選（男子）	5/30（金）－6/1（日）	未定	参加
7月	※第7回女子・第19回男子世界学生選手権	7/5（土）－7/13（日）	イタリア・ベネチア	U-24
	※第3回男子ユースアジア選手権（2009WC予選）	7/5（土）－7/11（金）	ヨルダン	男子ユース（U-19）
	※第13回ヒロシマ国際大会	未定	日本・広島市	
	※第2回女子ユース世界選手権	7/11（金）－7/20（日）	スロヴァキア	女子ユース（U-18）
	第28回全国クラブ選手権大会・西	7/20（日）、7/21（月）	佐賀県・佐賀市	佐賀県総合体育館
	※第16回女子ジュニア世界選手権	7/21（月）－8/3（日）	マケドニア	女子ジュニア（U-20）
	※第11回男子ジュニアアジア選手権（WC予選）	7/25（金）－8/5（火）	バングラディシュ	男子ジュニア（U-21）
	高松宮記念杯第49回全日本実業団選手権大会	調整中	調整中	調整中
	第28回全国クラブ選手権大会・東	未定	福島県・本宮市	本宮市総合体育館・本宮体育館・本宮高等学校体育館（予定）
	第21回全国小学生大会	未定	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館、京都府立田辺高等学校体育館、精華町むきのきセンター（予定）
	高松宮記念杯第59回全日本高校選手権大会	7/29（火）－8/3（日）	埼玉県・和光市、朝霞市、三郷市、八潮市、吉川市	和光市総合体育館、朝霞市立総合体育館、県立朝霞高校体育館、三郷市総合体育館、八潮市立鶴ヶ曽根体育館、吉川市総合体育館
8月	NTSブロックトレーニング		各ブロック	各地
	第10回ハンドボール研究集会	8月上旬	東京都（予定）	未定
	西日本学生選手権大会	8/5（火）-8/9（土）	兵庫県・神戸市他	グリーンアリーナ神戸・神戸市立中央体育館・尼崎記念公園総合体育館・明石市立中央体育館
	東日本学生選手権大会	8/7（木）-8/9（土）	東京都	東京女子体育大学体育館、国士舘大学多摩キャンパス体育館
	※北京オリンピック	8/8（金）－8/24（日）	中国・北京他	
	第13回ジャパンオープントーナメント（女子）トキめき新潟国体リハーサル大会	8/8（金）－8/10（日）	新潟県・上越市	リージョンプラザ上越、柿崎総合体育館
	第13回ジャパンオープントーナメント（男子）	8/9（土）－8/12（火）	富山県・富山市	富山市総合体育館他
	第37回全国中学校大会	8/18（月）－8/20（水）	福井県・福井市	福井県営体育館、北陸電力福井体育館フレア、トリムパークかなづ体育館
	第16回全日本マスターズ大会	8/22（金）－8/24（日）	愛知県・豊田市	スカイホール豊田・豊田市総合運動公園体育館
	第35回全国高等専門学校選手権大会	8/23（土）、8/24（日）	北海道・釧路町、釧路市	釧路町総合体育館、釧路公立大学体育館
	※第12回日韓スポーツ交流（派遣/男子）	未定	韓国	男子U-16
	※第16回日韓中ジュニア交流大会	8/25（月）－8/27（水）	千葉県・千葉市	男女高校生、千葉ポートアリーナ
	第10回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8/29（金）－8/31（日）	兵庫県・神戸市	アジュール舞子海岸
9月	※第12回日韓スポーツ交流（派遣/女子）	未定	韓国	女子U-16
	第33回日本リーグ	9/6（土）－	各地	
10月	第63回国民体育大会	10/3（金）－10/7（火）	大分県・大分市	大分県立総合体育館、大分市コンパルホール、県立大分舞鶴高校多目的競技場、県立大分鶴崎多目的競技場、大分市立王子中学校体育館
	※第12回日韓スポーツ交流（受入/女子）	未定	未定	女子U-16
11月	高松宮記念杯男子51回女子44回全日本学生選手権	11/20（木）－11/24（月）	山口県・周南市	周南市総合スポーツセンター、周南市鹿野総合体育館
12月	※第12回女子アジア選手権（WC予選）	12/3（水）－12/10（水）	タイ	女子ナショナル
	第60回全日本総合選手権大会	12/17（水）－12/21（日）	石川県・金沢市	いしかわ総合スポーツセンター
	第17回JOCジュニアオリンピックカップ	12月下旬	大阪府・堺市	堺市家原大池体育館・金岡体育館他
	NTSセンタートレーニング	未定	未定	
1月	※第21回男子世界選手権	1/16（金）－2/1（日）	クロアチア	
2月	全日本実業団チャレンジ2009	未定	未定	未定
3月	第33回日本リーグプレーオフ	3/14（土）、3/15（日）	東京都	未定
	第32回全国高校選抜大会	3月下旬	徳島県・徳島市	徳島市立体育館など予定
	第4回春の全国中学生選手権大会	3月下旬	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター、県立氷見高校体育館、県立有磯高校体育館

2008年2月29日現在　　※は国際大会

～改めて「本質」見つめたい～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

五輪アジア予選のやり直しは、これまでになかったほど各方面から注目を浴びた。メディアも連日報道するなど、ハンドボールという競技がいきなり表舞台に立たされた。

「中東の笛」騒動は、続いて世界選手権予選を兼ねて行われた男子のアジア選手権でも、これまでと比べ全く予想がつかないくらいの反響があった。

しかし、ＩＨＦ管理下での大会で「中東の笛」という露骨な操作は影を潜めたにもかかわらず、審判員の構成が中東に偏るなど、正常化への道はまだまだイバラと言わざると得ないようだ。

ところで、やり直しで敗れた日本は、予選に続き４大会ぶり王座を奪回した韓国に屈し、過去最低の７位という結果で世界選手権への道は閉ざされた。五輪は世界最終予選は残されているが、まずは北京出場はきびしいと言っていいだろう。

「中東の笛」が排除できた現状で結果を残さないことには、あのやり直しも空しくなってくるし、説得力もなくなることは明白だ。スポーツにも政治の影はいまやついて回っている。そこをどのように打破するかも一つだが、一方、少々のミスジャッジに勝てる実力をつけることが先決だろう。

「なぜ日本は韓国に勝てないのか」－まずは東アジア圏で韓国を打ち破ることが、世界へつながる道ではなかろうか。そうした「本質」をしっかり見つめて今後のビジョンを立てることが重要だろう。

あれほど盛り上がったやり直し予選。結果がついてこなければメディアはそっぽを向くのは明らか。事実、五輪予選、世界選手権は報道したが、日本リーグへの注目度は相変わらずだ。

結果につないでいくためには、技術、戦術はもちろんながら強い相手、高いレベルの戦いの場を数多く踏むことも一つの手段だろう。そこでさらに瞬時に発揮できる最大限の集中力を身につけ、ゲームプランを個々が共有する感性が大切だろう。多くの経験を積むことこそが結果につながるはずだ。考え方としてはスタッフはもとより、選手も「プロ」の意識が必要だ。

さらにはすそ野をもっともっと広げることだ。振興、普及へいっそうの努力が求められる。地域とのきずなを深めるために、日本協会の重要施策でもあるクラブ化への運動のうねりを大きくすることだ。

今回ほどハンドボール界を変えるチャンスはない。課題をしっかり見つめ直し、球界挙げて改革のエネルギーに変えたいものである。

全日本実業団ハンドボールチャレンジ•2008

<最終順位>	
優　勝	**八光自動車工業（大阪）**
準優勝	セントラル自動車（神奈川）
3　位	金沢市役所（石川）
4　位	自衛隊久里浜（神奈川）

全日本実業団ハンドボールチャレンジ 2008 大会を振り返って

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　原田 孝幸

全日本実業団ハンドボールチャレンジ 2008 大会は、佐賀県ハンドボール協会様のご尽力を賜わり佐賀県神埼市にて開催いたしました。同時期に九州高等学校ハンドボール選抜大会が開催されており、人手不足にもかかわらずチャレンジ大会の受入をしていただきましたことを、心から御礼申し上げます。

さて、今年度で 39 回目の開催となった今大会は、昨年度優勝の金沢市役所（石川県）を始め、準優勝の高知クラブ（高知県）、3 位の八光自動車工業（大阪府）をシードとし、残り 10 チームは昨年度の対戦と同地区での対戦を避けた組合せとなりました。

昨年度出場の新日本石油根岸（神奈川県）と日本ゼオン（山口県）は会社業務の都合や出場選手の確保が困難なため出場辞退となる中、周南市役所（山口県）の復活と新に HC 愛媛が参戦し、昨年度と同様 13 チームでの戦いとなりました。

会場は、『平成 19 年度全国高等学校総合体育大会・ハンドボール競技』の会場となった神埼中央公園体育館とトヨタ紡織九州クレインアリーナの 2 会場で開催され、両会場とも白熱した試合が行われました。



昨年度、準優勝の高知クラブが 1 回戦で敗れる波乱もありましたが、金沢市役所・八光自動車・セントラル自動車は順当に勝ち進む中、高知クラブを破った自衛隊久里浜が準決勝に駒をすすめました。

決勝に勝ち進んだのは、準決勝で安定した攻防を見せた八光自動車とセントラル自動車の対戦となり前半で素晴らしい攻守を見せた八光自動車が逃げきり優勝を飾りました。

準決勝：2月 10 日（日）

セントラル　33（17 － 9、16 － 12）21　金沢市役所
自動車

前半、序盤は両チームともスピードのある動きで一進一退の攻防を繰り返した。9 分過ぎから攻撃のミスが目立ちはじめた金沢市役所につけこみ、セントラル自動車は速攻とセットプレーで 5 連取し金沢市役所を引き離す。その後も確実に得点を重ねたセントラル自動車が 8 点リードで前半を折り返す。

後半立ち上がり、セントラル自動車が 2 連取し 10 点差をつけられた金沢市役所は、3 分過ぎ 5 番高田・6 番前川・13 番坂野で 4 連取し 6 点差まで詰め寄るが、セントラル自動車は 10 番桑名・18 番信太を中心としたプレーで着々と得点を重ね、終わってみれば 33 対 21、12 点の大量リードでセントラル自動車が勝利し決勝に駒を進めた。

八光自動車工業　24（14－7、10－6）13　自衛隊久里浜

前半立ち上がり、八光自動車は14番堀上のシュートで先制したが、両チームともミスが目立ち5分過ぎまで得点が入らず。その後、お互いに得点を重ね互角の攻防を繰り返したが、13分過ぎ八光自動車のオフェンスが機能しはじめ、14番堀上・13番徳永・5番新谷で3連取。自衛隊久里浜のミスも目立ちはじめ、八光自動車は13番徳永の速攻で得点し前半を14対7の八光自動車リードで折り返す。

後半も安定したディフェンスから速攻で確実に得点を重ねた八光自動車が終止リードを保ち、24対13で勝利し決勝に駒を進めた。

3位決定戦：2月11日（月）

金沢市役所　28（15－6、13－11）17　自衛隊久里浜

前半立ち上がり、金沢市役所は13番坂野・15番宮崎で2連取するが、自衛隊久里浜も3番山口・4番成田で応戦。一進一退の攻防が続く中、金沢市役所の高い3－2－1ディフェンスが機能しはじめ、パスカットから7番若林の4連続速攻等で8連取し、前半を15対6と金沢市役所リードで折り返す。

後半も金沢市役所は攻撃の手を緩めず得点を重ね、開始17分までに16点リードとするが、自衛隊久里浜も残り5分から速攻で7得点をあげ粘りを見せたが、28対17で金沢市役所が勝利し3位入賞を果たした。

決勝：2月11日（月）

八光自動車工業　21（12－6、9－13）19　セントラル自動車

決勝は、昨年3位の八光自動車と昨年4位のセントラル自動車との対戦となった。

前半、先制したのはセントラル自動車。2連取後8分過ぎまで2点のリードを保ち安定したゲーム運びを見せていたが、八光自動車GK12番与那覇の好セーブから、13番徳永・14番堀上の速攻で7連取し、前半を12対6で八光自動車リードで折り返した。

後半立ち上がり、セントラル自動車は18番信太・4番吉田で2連取するものの、八光自動車は7番奥を起用したセットプレーで3連取し八光自動車が逃げきるかに見えた。しかし、7分過ぎ、攻守のリズムを取り戻したセントラル自動車が4番吉田・10番桑名・18番信太の攻撃で2点差まで追い上げるが、前半の貯金で逃げ切った八光自動車が見事優勝を飾った。

優勝チームコメント　全日本実業団チャレンジ2008に優勝して

八光自動車工業株式会社ハンドボール部監督　福島 剛志

昨年は3連覇を逃したこの大会に、今年は優勝を強く意識して臨みました。どこのチームもそうであるように、我々八光自動車も、『仕事優先』の方針の中から週一回、約二時間の練習時間をなんとか捻り出してコンディションを整えました。

エースの萩原を海外出張で欠くというメンバー構成でありながら、2回戦さらに準決勝では自衛隊久里浜チームのスピードある試合にも対応し順調に勝ち進む事ができました。

決勝戦のセントラル自動車チームとは、これまでに何度か対戦していました。昨年、今年と有望な新人が多く加入したと聞いておりましたし、準決勝を見ても非常に良いチームに仕上がっているように見え、同じ日本リーグに参戦していない実業団同士のプライドを賭けた絶対に負けられない一戦になりました。

決勝戦は、オフェンスの要の萩原が居ませんので、ディフェンスで試合の主導権を握り効率よく攻撃回数を稼ぐという指示をまずは徹底しました。そのため、本来は3－2－1システムなのですが、相手に大きくて強いポストプレーヤーが居る事もあり、6－0システムに変え、それによってほぼ意図した通りの展開に持ち込む事ができました。非常に厳しい試合で、後半には不用意な退場者を出し追い上げられる場面もありましたが、常にセーフティリードを保ちながら最後まで大きく崩れる事なく勝利することができました。



我々は、少ないメンバーで効率的な練習を積み重ねてきました。こうした努力が実り、今大会は選手全員で勝ち取った価値ある優勝でした。

これからも八光自動車の方針でもある『仕事が最優先、次にハンドボールも頑張ってそして熱くて面白い試合のできるチーム』を目指してまいります。

空前のハンドボール人気の中、我々のようなスタンスの実業団チームがより活動の場を広げられる様に、そしてもっと競技人口が広がるような活動を続けてまいりたいと考えております。

最後に大会運営にご尽力賜りました役員、スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

平成19年3月17日・18日の両日、駒澤大学において、第5回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。研究会の発表について、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は會田　宏（武庫川女子大学）先生の発表内容「国際レベルで活躍したゴールキーパーの動きのコツに関する事例研究」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で順次報告いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

国際レベルで活躍したゴールキーパーの動きのコツに関する事例研究

會田　宏（武庫川女子大学）

キーワード：動きのコツ、ゴールキーパー、プレー理念

Ⅰ. 緒言

スポーツにおいて動きを指導する場面では、「動きがどのようになっているのか」といった客観的な情報を選手に与えるのみでなく、「どのような感じで動くとできるのか」といった主観的な情報を伝えることが効果的である。主観的な情報は、動きのコツ、動きの意識・イメージなどと呼ばれ、運動ができるようになる勘どころである。

動きのコツは、選手固有の身体や運動感覚能力と深くかかわっており、外から見ると同じような動きができている場合でも、そのコツは個人間で異なることがある。そのため、指導実践現場では研究の必要性が指摘されていたにもかかわらず、客観性がないという理由から、ほとんど研究されることはなかった。

本研究では、現役を引退し、国際レベルで活躍した２名のゴールキーパーに動きのコツをインタビュー調査し、その事例についてスポーツ運動学的な立場から検討することを目的とした。

Ⅱ. 方法

（1）対象者

①橋本行弘 選手（男性、1965年生）
　1997年世界選手権大会ベスト16
②王涛（ワン・タオ）選手（女性、1967年生）
　1996年アトランタ五輪５位、中国代表

（2）調査日時

2002年6月22日および2002年12月17日

（3）調査内容

調査内容は、競技生活を支えた技や動き、その技や動きのコツ、そのコツをつかむきっかけなどであった。インタビュー調査の精度を高めるために、対象者には、インタビュー調査に先立ち、調査内容を記述するアンケート調査票を配布し、現役時代を振りかえって回答してもらった。それをインタビュー調査時の補助資料とした。

Ⅲ. 結果と考察

（1）事例の提示

「　」は対象者の発言内容を示す。

①橋本選手の動きのコツ

橋本選手のゴールキーピングは、「パズルにピースをはめ込んでいくのと一緒」「ゴールを自分の体で占有していく」「シュートが飛んできたコースと逆方向に動かない」という独自の『空間占有論』ともいえるプレー理念（プレーに対する根本的な考え方）に基づいていた。これらを、当時、世界ナンバーワン・ゴールキーパーの評価を得ていたマッツ・オルソン（スウェー

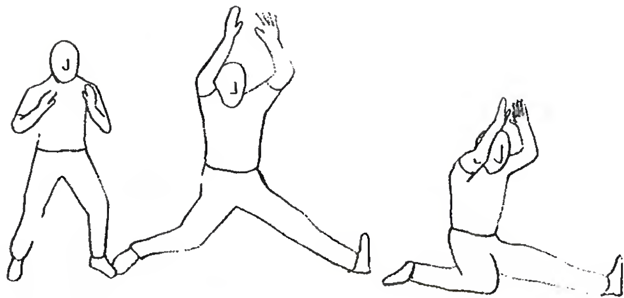


図1　橋本選手のスライディングキーピング

デン）らとの合同合宿で深化させていった。

この考え方を実践するために、トラッキングフットワークとスライディングキーピングに取り組んだ。

トラッキングフットワークは、シュートに対する準備局面、すなわち「構え」において、「ミリの差を意識して正確に立つため」、「反応時間を短縮するため」の技術であった。これは、シュートコースを見極めて、キーピング動作の始動をぎりぎりまで遅らせることに役立っていた。動きのコツに関しては、「上半身がぶれないように、へそを中心として…（中略）…、骨盤の位置を絶対に動かさない」と表現していた。

スライディングキーピングでは、ボールへのミートは「守るのではなく、積極的に攻める」というイメージ、「飛んできたボールを、自分の体をバットにして打ち返す」というイメージを持っていた。これは、スピードのあるシュートに負けないように、スピーディーでパワフルなキーピング動作を行うのに役立っていた。動きのコツに関しては、「かかとが遠くに出てくような状態にすること、その下半身に上体全部がついていく」と表現していた。

②ワン選手の動きのコツ

ワン選手は、「逆に打たれないで、しかも遅れないタイミングを見極めて」キーピング動作を始めるというプレー理念を持っていた。それは、1990年の中国代表チームの東ドイツ遠征で、相手ゴールキーパーの動きを観察して気づいたものであった。

ロングシュートに対しては、「打たれてから反応しても間に合う」キーピングを目指していた。動作を短時間で行なうために、「構えの姿勢から重心を沈み込ませずにキーピング動作を始める」こと、そのために「太ももの筋肉ではなく、膝から下の筋肉を使って練習やトレーニングする」ことを常に心がけ、約1年かけて動きを修正していった。



図2　ワン選手の重心を軸足の腰に置く構え（右）

サイドシュートに対しては、「左右の脚に均等に重心をかけて構えるのではなく、重心を軸脚の腰あたりに置いていた」。それによって、「ボールを捕りに行く脚（軸脚と反対の脚）が自由」になり、どのコースにも「素早く動け、股下にも完全に対応できた」と語っていた。

（2）事例の検討

本研究で得られた2つの事例は、ゴールキーピングを標準化するものではない。しかし、いずれの対象者も、キーピング動作の始動時にはシュートコースに対して、先に動く「しかけ」ではなく、反応する動きを心掛けていた。キーピング動作に先立つ、構えおよび位置取りの修正は、シュートに対して最短距離で移動できる準備、シュートスピードに遅れない準備ととらえている様子が伺えた。

Ⅳ. 実践現場への提言

本研究の結果は、実践現場の選手および指導者にとって、有用な知見である。しかし、事例において示された動きや動きのコツを真似するだけでは、プレーの改善は望めないであろう。なぜならば、橋本選手やワン選手の動きは、プレー理念を具体化させる「手段」であるからである。事例に示された動きを習得するためには、選手は、まずプレー理念に共感してから、動きのイメージやコツを共有することが重要であると考えられる。

付記

本研究は、日本体育協会スポーツ医・科学研究費（スポーツ振興くじ（toto）助成）、および科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号8500500）を受けて実施された。

2008年度
(財) 日本ハンドボール協会
登録にあたっての注意

1．個人情報の扱いについて

取得した個人情報は、本会及び本会加盟団体が、協会連絡資料の送付及び大会を実施する際の登録確認を目的に利用します。

2．登録用紙について

登録用紙は6種類、10種別用意されています。

(1)「一般L・一般A」、「リージョナル」、「大学」、「高専・高校」、「中学生・スポーツ少年団」、「小学生・スポーツ少年団」に区分されていますので、該当する種類の用紙で種別ごとに登録して下さい。小学生については競技人口把握のために行うものです。なお、小学生大会など全国大会に出場するためには、チームおよび個人の登録が必ず必要となります。ご面倒ですが、ご協力よろしくお願いいたします。

(2) 種別の異なる登録用紙を使用して、他の種別の登録は出来ませんのでご注意下さい。また、年度内にチームの種別を変更することは出来ません。

(3) 登録用紙はチーム役員・選手数が多い場合に裏面にも記載できます。但し、裏面を使用した場合は、「副」、「写」のコピーは両面コピーをして「正」と同様に1枚の用紙にして下さい。

(4) 登録用紙は、日本協会ホームページ(URL http://www.handball.jp）から、ファイルをダウンロードして使用しても構いません。但し、「エクセル」ファイルのみしか用意しておりませんので、対応できない場合は各都道府県協会より配布を受けて下さい。

3．登録規定第2条にしたがって、チームおよび個人（チーム役員および選手）は日本協会に必ず登録して下さい。登録を行わなければ日本協会、各都道府県協会、または各協会・連盟が主催、共催する大会にチーム役員（部長、監督、コーチ、トレーナー、ドクター、マネージャー、主務）および選手として参加することは出来ません。また、選手がチーム役員として、あるいはチーム役員が選手として参加する場合は、それぞれチーム役員あるいは選手の登録もして下さい。虚偽の記載（誤記であっても）があれば、日本協会懲罰委員会にかけられますのでご注意下さい。

4．種別について

(1)「一般L」について

日本リーグ加盟チームのことで、すべての大会に参加資格があります。

(2)「一般A」について

日本リーグ以外のすべての大会に参加資格があります。

(3)「リージョナル」について

都道府県内での大会のみ参加資格があります。「リージョナル」種別のチームに登録した選手は、国民体育大会（予選を含む）への参加資格はありません。

(4) 大学

全日本学生連盟に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の大学生は、「一般A」または「リージョナル」登録となります。

(5) 高専

全国高等専門学校体育協会ハンドボール競技専門部に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の高専学生は、「一般A」または「リージョナル」登録となります。

(6) 高校

全国高等学校体育連盟ハンドボール部に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の高校生は、「一般A」または「リージョナル」登録となります。

5．日本協会登録料

＊平成20年度より中学・少年団の生徒チーム役員と選手に、個人登録料設定

種別	一般L	一般A	ﾘｰｼﾞｮﾅﾙ	大　学	高専・高校	中学・少年団	小学・少年団
チーム	700,000円	35,000円	5,000円	17,000円	10,000円	2,000円	0
チーム役員 @*	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円 ** 学生 800円 ***	2,000円 ** 生徒 500円 ***	2,000円 ** 生徒 500円 ***	2,000円 **
選手 @*	2,000円	1,300円	800円	800円	500円	500円	0

* 登録締め切り後の個人（チーム役員及び選手）の追加登録料は、登録時と同額です。

** 同学校(団体)の男・女両チームのチーム役員を兼任する場合は、登録料を1チーム分のみとする。
同学校(団体)の学生（生徒、児童）をチーム役員に登録する場合は、登録料を選手と同じにする。

*** 同学校の学生、生徒が選手とチーム役員を兼任する場合は、1名分の登録料のみでよい。

6．登録用紙作成数、提出先および期限について

(1) 各チームは登録用紙を必ず「正」1部、「副」2部、「写」1部の計4部（「副」、「写」は「正」のコピーでよい）作成して、「正」1部、「副」2部の計3部を所属の都道府県協会の指定する日までに提出して下さい。なお、「写」は控えとしてチームで保管して下さい。裏面を使用した場合は、「副」、「写」のコピーは両面コピーをして「正」と同様に1枚の用紙にして下さい。

(2) 登録用紙をファイルで提出することを可能と致します。但し、直接の提出先（都道府県協会）が対応できない場合がありますので、所属の都道府県協会にお尋ね下さい。

7．学校単位における合同チーム登録について

所属する連盟が合同チーム編成を許可している場合は、合同チームでの登録を認めます。学校名の欄に「○○中学校＋□□中学校（合同)」と明記して下さい。

8．個人の登録チーム数について

(1) チーム役員は複数チームに登録できます。但し、登録料はそれぞれにかかります。特例として、同一の学校・団体（大学、高専、高校、中学、小学、少年団）において男子・女子両チームのチーム役員を兼任する場合は、登録料を1チーム分のみとします。

(2) 選手登録は1人1チームのみとし、複数チームに登録（重複登録）できません。重複登録は登録規定により懲罰の対象となります。但し、国民体育大会、その他、特別の選抜チームの登録については別に定めます。

9．国体登録について

日本協会登録用紙で登録手続きをされたチームが1人以上補強して国民体育大会へ出場しようとする場合及び単独チームが国民体育大会ブロック予選に出場する場合は、国体登録をする必要があります。但し、構成メンバーの年齢は、登録用紙の記載いかんに関わらずすべて「国民体育大会規定」の適用を受けるものとします。

10．登録証の発行について

(1) 登録したすべてのチーム役員および選手には、登録証を発行します。有効期間は当該年度末までです。紛失などで再発行する場合は、事務処理費として500円のご負担をいただきます。

(2) 登録証は日本協会に登録されたことを示す重要なものです。各

種大会で登録証の提示を求めますので、試合の際は必ず登録証を持参して下さい。登録証の保管・所持には十分ご注意ご配慮をお願いします。

11．チームの新規登録について

新設（新規）チームの場合は、登録締切以降でもその都度登録を受け付けます。但し必ず各都道府県協会を経てお送り下さい。新設チームとは前年度に日本協会登録をしていないチームのことを言います。

12．チーム役員および選手の追加（新規）登録について

チーム役員および選手の追加登録はその都度認められます。追加登録は大会申込期日までに、各都道府県協会を通じて完了されていなければなりません。所定の届け出用紙に必要事項を記入し所定の追加登録料と共に、各都道府県協会を通じで日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。

13．選手の追加（移籍）登録について

(1) 当該年度にチームに個人登録し、そのチームをやめ、他のチームで再び競技をしたい場合は登録を一旦抹消し (14 項参照)、新チームで追加（移籍）登録をしなければなりません。

(2) 追加（移籍）登録の1度目は、当該年度内のいつでもできます。一度追加（移籍）登録をした場合は、当該年度2番目の登録チームに3カ月間在籍しなければなりません。3カ月経過しなければ2度目の追加（移籍）登録はできません。

(3) 追加（移籍）登録をする場合は、所定の届け出用紙に必要事項を記入し所定の追加登録料と共に、各都道府県協会を通じて日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。なお、追加（移籍）登録用紙には、前所属チーム責任者印及び本人印が必要です。

14．登録抹消について

所属チームをやめる場合は、登録抹消手続きをする必要があります。所定の届け出用紙に必要事項を記入して、各都道府県協会を通じて日本協会へ提出して下さい。日本協会が受理した日をもって有効とします。なお、登録抹消用紙には、本人の承諾印が必要です。

15．登録用紙記入の際の注意事項について

登録用紙に記入する際は、下記事項に注意し正確に記入して下さい。なお、前年度の登録一覧表（但し全項目は入っていない）を各チームに配布しますので、ご参照下さい。

この説明書はすべての種別に共通に作成してありますので、登録用紙に見あたらない項目の説明もあります。その場合は読み飛ばして下さい。

(1) 新規・継続、種別、男女別欄および加入連盟（団体）は該当に○印を付けて下さい。

(2) 所属都道府県の欄にはチームを登録する都道府県名を記入して下さい。

(3) 登録役員数および登録選手数欄には、登録する個人の合計数を記入して下さい。

(4) 登録役員数欄には、該当する人数を記入して下さい。

(5) チーム№、チーム名（学校名）は前年度に登録がある場合は同じ№、名称にして下さい。チーム名を変更する場合は、別途「チーム名変更届（理由書）」（書式任意）を添付して下さい。

(6) 代表者欄は、チームを代表される方（校長、部長、監督、指導者など）の氏名をお書き下さい。

(7) チーム（学校）所在地を記入して下さい。

(8) 連絡先欄は、日本協会登録証や各種通信物が確実に届くところを正確に記入して下さい。担当者名、送付先団体名が必要な場合は、必ず記入して下さい。機関誌送付先が連絡先と異なる場合は、機関誌送付先も正確に記入して下さい。もし登録後に転居などで住所を変更される場合は、速やかに都道府県協会を通じ日本協会に連絡をして下さい。

(9) 各箇所のフリガナ欄には必ずカタカナで記入して下さい。郵便番号（〒）は必ず最新の7桁番号を記入して下さい。住所欄への都道府県名記入は不要です。チーム役員は性別を記入して下さい。

(10) すべての種別のチーム役員、および選手（「小学生・スポーツ少年団」を除く）は特にコンピュータ入力をし、登録№で個人管理を行います。登録 No. は生涯個人№となります。前年度に発番がない場合、または、今年度、新規に登録するチーム役員および選手は番号欄に（新）と記入して下さい。役職欄は部長、監督、コーチ、トレーナー、ドクター、マネージャー、主務などがこれに該当します。但し、「役職名」はチーム状況把握のために行うもので、この「役職」で登録を規定するものではありません。従って、それぞれの大会規定に従い役職名を変更することが出来ます。

(11)「大学」、「高専・高校」、「中学生・スポーツ少年団」、「小学生・スポーツ少年団」に登録するチーム役員の内、同一学校 (団体) の男子・女子両チームのチーム役員を兼任する場合は、役職欄に" 監督（兼）" のように役職名の後に"（兼）" と記入して下さい。また、登録料の免除を受ける側の登録用紙の現住所欄に、住所を記入せず" 男子チームで支払い" のように記入して下さい。

(12)「大学」、「高専・高校」、「中学生・スポーツ少年団」、「小学生・スポーツ少年団」に登録するチーム役員の内、同学校 (団体) の学生、生徒、児童の場合は、番号に○をして下さい。

(13)「大学」、「高専・高校」、「中学生・スポーツ少年団」に登録する学生、生徒チーム役員の内、選手と兼任する場合は、チーム役員欄に記入せず、選手欄の番号に○をし、番号左側欄外に「役職名」を記入して下さい。

(14) 選手欄の通し番号はユニフォーム番号とは関係ありません。上から詰めて記入して下さい。

(15) 過去に登録した個人が新規に登録をし、新たに登録№を取得すると重複登録としてリストアップされます。重複登録は登録規定により懲罰の対象となりますので、間違いのないようにご注意下さい。特に、種別が変わる（大学→一般Aなど)、移籍などは、前年度（過去）の個人№を確認し記入して下さい。

(16) 生年月日は西暦で記入して下さい。昭和の場合は年号に 25 を足せば西暦下2桁になります。

(17)「契／非」欄は IHF 規定に基づく契約の有無についてです。該当を必ず○印で囲んで下さい。

(18) 勤務先は出来るだけ詳細に記入して下さい。

例：○×㈱、●▼高校教員、◇◆大学□学部△年

(19)2006 年度兵庫国体及び 2007 年度秋田国体に出場された方（都道府県大会及びブロック大会を含む）は、「国体出場都道府県名」を記入し、国体（都道府県大会及びブロック大会を含む）に出場する際に、「国民体育大会規定」に抵触しないように十分ご注意下さい。

16．連絡先、機関誌送付先変更について

登録料には機関誌代を含みます（リージョナルは除く、小学生は一部の号のみ)。連絡先、機関誌送付先変更の場合は、速やかに都道府県協会を通じ日本協会に必ずご連絡下さい。なお、機関誌年度は、登録締切期限の関係から 2008 年7月～ 2009 年6月（1・2月、6・7月は合併号、年 10 回発行）で、通常の年度と異なります。3，4月の転勤・転居などの際は特にご注意下さい。

17．ご不明の点は、所属の都道府県ハンドボール協会または（財）日本ハンドボール協会（〒 150-8050　東京都渋谷区神南1－1－1　電話　03-3481-2361）へお問い合わせ下さい。

2007 NTS センタートレーニング報告

NTSコーディネーター　岡本　大

前報告において１月に開催されました「ＮＴＳセンタートレーニング2007」のトレーニングスケジュールおよびトレーニングメニューを紹介しました。今号においては、世界で活躍できる可能性を持った日本代表プレーヤーを育成するために必要であることを、ＮＴＳシミュレーションにおいてナショナルコーチングスタッフがディスカッションし、ＮＴＳ2007トレーニングメニュー選定に至った基本的なコンセプトを報告します。

＜はじめに＞

「個の育成」

・NTSは若い世代の為の、発掘育成システム
・普遍的課題克服に向けて『個を育成』する
・しかし、個人プレーという意味ではなく日本が目指すべきゲーム像の中での個の育成

＜挙げられる課題＞

・フットワーク力改善
・シュート精度向上
・シュートバリエーション不足
・１対１のフェイント力不足
・ＤＦコンタクト
・ＤＦの位置取り
・速攻の走り方
　　　などなど





＜ＮＴＳとしての課題およびメニューの選定＞

「ハンドボールベーシック」ハンドボールとして、スタイルに関係なく当然おさえておかなくてはならいないもの

・パスキャッチ（ノーマル）
・速攻のランパス（ドリブル）
・ＤＦ基本姿勢
　　　などなど



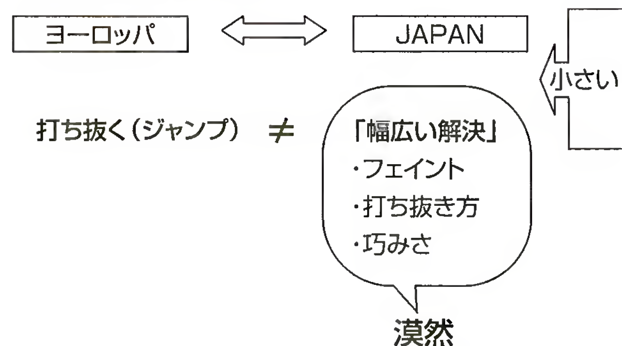
＜ジャパニーズスタイルの模索＞

「ジャパニーズスタンダード」

日本としての戦術のための技術を有する選手

『大前提条件：形態的に劣る（小さい）』
例）女子中国平均身長178cm（昨アジア大会）

〈1対1の状況解決能力〉





「コンパクトスイング」（肘から先を鞭のようにした投げ方）小さい形態で有効なものは？
・クイックシュート
・サイドハンドシュート
・ステップ・ランニングシュート

ＮＴＳの基本理念として、国際競技力向上のための個の育成が主眼である。

ナショナル及び各カテゴリーからあがってくる課題は、基本的なミスなど多岐にわたる。

スタイルに関係なくハンドボールにおける基本的な部分であるパスキャッチなどは、「ハンドボールベーシック」として押えながら、ＮＴＳセンターでは日本人が世界で活躍していくためのベーシックではない部分を「ジャパニーズスタンダード」として優先的に強調していく。

「ジャパニーズスタンダード」を考えていく上で、大前提条件が形態的に劣る（例：2007フランスでの女子世界選手権において日本チームは身長で最小）ということがある。『機動力』と言うテーマをもとに進められてきているジャパニーズスタイル構築において、ＯＦとして、「１対１状況解決能力」が全カテゴリーから上がってきている課題である。ヨーロッパのようなジャンプシュートでＤＦを打開できるのとは異なり、形態の小さい日本にはフェイント、シュートバリエーション、巧みさといったものが必要である。シュートバリエーションの中で共通の基本が大きなスウィングを伴うシュートでは、外国のシュートブロックをかわしきれないという考えから、「コンパクトスウィング」の獲得を優先課題とした。



スコアールーム　全日本実業団チャレンジ2008

開催期日：2008年2月8日(金)～10日(日)
会　　場：大分県・神埼中央公園体育館ほか

▼１回戦

豊田自動織機(愛知)	33（19－２、14－６）８	周南市役所(山口)
大阪ガス(大阪)	26（16－２、10－９）11	新日鐵名古屋(愛知)
セントラル自動車(神奈川)	28（15－６、13－７）13	HC愛媛Armada(愛媛)
トクヤマ(山口)	32（17－７、15－12）19	マツダ(広島)
自衛隊久里浜(神奈川)	23（９－11、14－７）18	ブラザー工業(愛知)

▼２回戦

金沢市役所ハンドボール部(石川)	32（17－７、15－12）19	豊田自動織機(愛知)
八光自動車工業(大阪)	28（19－７、９－12）19	トクヤマ(山口)
自衛隊久里浜(神奈川)	22（９－10、13－11）21	高知クラブ(高知)
セントラル自動車(神奈川)	23（13－９、10－９）18	大阪ガス(大阪)

▼準決勝

八光自動車工業	24（14－７、10－６）13	自衛隊久里浜
セントラル自動車	33（17－９、16－12）21	金沢市役所

▼３位決定戦

金沢市役所	28（15－６、13－11）17	自衛隊久里浜

▼決 勝

八光自動車工業	**21（12－６、９－13）19**	**セントラル自動車**

▼敗者戦１回戦

ブラザー工業	31（10－６、21－５）11	周南市役所
マツダ	20（11－９、９－８）17	新日鐵名古屋
豊田自動織機	24（12－８、12－15）23	トクヤマ
HC愛媛Armada	24（11－９、13－11）20	高知クラブ

▼敗者戦準決勝

マツダ	21（９－８、12－９）17	ブラザー工業
HC愛媛Armada	26（８－７、18－８）15	豊田自動織機

▼敗者戦決勝

HC愛媛Armada	**34（15－10、19－10）20**	**マツダ**

▼最終順位

優　勝　八光自動車工業（大阪）
準優勝　セントラル自動車（神奈川）
３　位　金沢市役所（石川）
４　位　自衛隊久里浜（神奈川）

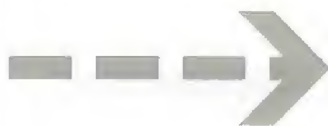
平成19年度　チーム数・選手数一覧表

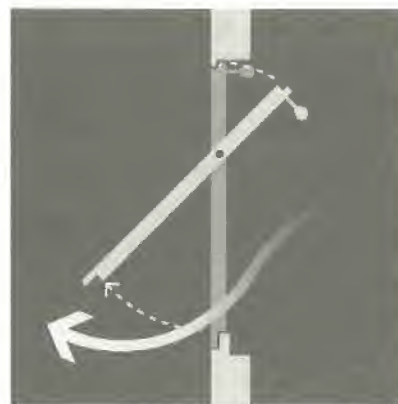
（財）日本ハンドボール協会　2008/3/5 現在

	種別	一般L		一般A		学　生		高　専		高　校		中学生		小学生・少年団		リージョナル		合　計	
No.	都道府県	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	17	304	33	492	2	50	56	1,089	15	359	8	120	6	94	137	2,508
2	青森県	0	0	13	189	4	58	1	27	19	403	1	12	0	0	1	4	39	693
3	岩手県	0	0	8	130	6	109	1	27	41	850	33	759	3	88	19	253	111	2,216
4	宮城県	0	0	6	93	11	175	1	17	42	916	17	344	1	22	2	32	80	1,599
5	秋田県	0	0	7	92	2	24	1	20	12	263	7	134	0	0	2	30	31	563
6	山形県	0	0	6	104	1	12	1	27	17	431	4	72	1	10	0	0	30	656
7	福島県	0	0	7	102	3	47	0	0	43	784	29	704	4	90	3	42	89	1,769
8	茨城県	0	0	7	112	4	78	0	0	52	829	33	516	8	183	11	156	115	1,874
9	栃木県	0	0	2	38	2	37	0	0	18	362	13	292	2	62	3	43	40	834
10	群馬県	0	0	7	109	1	11	0	0	18	334	17	387	3	96	2	19	48	956
11	埼玉県	1	22	13	218	6	94	0	0	82	1,837	44	1,096	3	58	2	29	151	3,354
12	千葉県	0	0	10	159	10	185	0	0	59	1,083	27	401	5	98	5	78	116	2,004
13	東京都	0	0	16	302	45	883	2	33	138	2,653	56	777	4	86	48	784	309	5,518
14	神奈川県	0	0	14	251	12	238	0	0	142	2,472	84	1,448	9	112	14	128	272	4,649
15	山梨県	0	0	6	83	5	62	0	0	26	556	15	281	3	100	7	95	62	1,177
16	長野県	0	0	5	81	2	30	0	0	31	486	10	215	2	64	0	0	50	876
17	新潟県	0	0	3	42	5	67	1	15	12	248	4	48	2	48	5	49	32	517
18	富山県	0	0	7	108	4	50	1	23	26	448	32	691	14	213	10	124	94	1,657
19	石川県	1	18	13	196	3	55	2	32	23	440	24	646	2	73	4	41	72	1,501
20	福井県	1	16	5	67	2	29	1	27	17	341	10	247	5	87	2	28	43	842
21	静岡県	0	0	13	165	4	68	1	15	43	1,008	6	169	1	57	0	0	68	1,482
22	愛知県	5	107	11	188	26	481	1	21	236	4,941	195	3,995	14	0	0	0	488	9,733
23	三重県	2	34	10	137	3	34	1	39	42	769	30	741	6	77	0	0	94	1,831
24	岐阜県	0	0	13	185	4	61	1	36	49	1,060	52	1,225	7	257	1	7	127	2,831
25	滋賀県	0	0	8	116	4	64	0	0	35	511	13	267	2	37	0	0	62	995
26	京都府	0	0	6	85	17	249	1	17	41	716	29	555	16	303	12	137	122	2,062
27	大阪府	0	0	11	168	27	484	1	25	93	1,808	22	453	6	167	0	0	160	3,105
28	兵庫県	0	0	7	124	13	220	1	20	86	1,445	30	697	10	238	6	108	153	2,852
29	奈良県	0	0	3	54	7	122	1	18	26	480	18	305	5	69	0	0	60	1,048
30	和歌山県	0	0	5	64	2	22	1	27	19	353	13	299	2	80	9	104	51	949
31	鳥取県	0	0	3	43	1	13	1	25	15	264	6	113	0	0	1	10	27	468
32	島根県	0	0	3	37	1	10	1	38	11	189	4	38	0	0	0	0	20	312
33	岡山県	0	0	11	160	8	103	1	30	52	1,000	16	285	12	184	5	60	105	1,822
34	広島県	2	37	5	106	6	102	1	16	18	312	9	191	3	92	3	42	47	898
35	山口県	0	0	10	148	1	13	2	51	30	688	22	434	4	223	4	55	73	1,612
36	香川県	0	0	4	63	3	64	1	14	22	385	19	456	3	74	0	0	52	1,056
37	徳島県	0	0	2	36	5	44	1	25	12	240	4	44	0	0	0	0	24	389
38	愛媛県	0	0	9	154	5	98	0	0	31	710	6	151	2	36	1	31	54	1,180
39	高知県	0	0	5	56	2	15	1	22	13	469	7	149	0	0	5	53	33	764
40	福岡県	0	0	4	65	12	201	4	77	49	915	19	376	6	74	0	0	94	1,708
41	佐賀県	1	17	4	46	1	16	0	0	14	237	6	104	1	12	0	0	27	432
42	長崎県	0	0	9	139	1	14	1	26	27	569	14	259	3	40	0	0	55	1,047
43	熊本県	1	20	4	74	5	75	2	43	53	951	38	698	25	478	0	0	128	2,339
44	大分県	0	0	8	101	3	49	1	11	13	205	13	211	11	181	1	6	50	764
45	宮崎県	0	0	6	84	2	28	1	12	34	573	17	250	10	154	5	71	75	1,172
46	鹿児島県	1	17	5	65	3	46	1	26	30	541	15	355	1	16	5	63	61	1,129
47	沖縄県	0	0	9	120	6	132	1	21	69	1,374	53	1,541	24	453	25	341	187	3,982
合計		15	288	360	5,563	333	5,564	43	953	2,037	39,538	1,151	23,790	253	4,912	226	3,117	4,418	83,725

呼吸する建築







Swindow●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



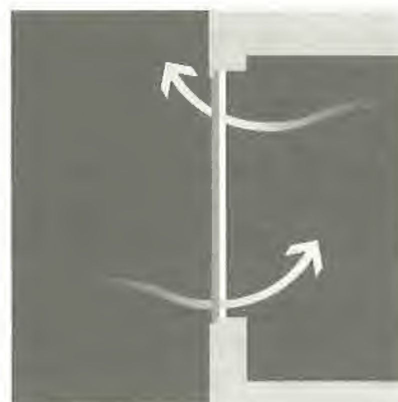




Wincon●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL (03) 5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」2月入会・継続会員

【北海道】清水　真樹　【山形】五島　訓二　【茨城】藤原　京子、藤原　舞、藤原　彩　【群馬】永井　栄子　【埼玉】森　雅浩、豊田　武、豊田　久恵、江坂　柚穂、今川　竹乃　【東京】田村　正一、田村　裕子、渡邊　佳英、石川　益男、山口　亮、橋本　東大、佐藤　香恵里、川上　整司、相原　智子、相原　孝太郎、石井　達也　【神奈川】光武　繁、吉田　祐子、鷲塚　賢志郎、渡辺　真理子、渡辺　京香、田村　修治　【新潟】笠原　洋美　【石川】寺垣　俊彦　【愛知】筒井　理絵、中條　浚汰、村上　智美　【大阪】中川　大嗣、藤井　貴也、山本　奈津　【兵庫】本多　美穂、立花　彰　【奈良】南條　恵　【岡山】直本ちあき　【広島】田中　友紀、植木　智大　【熊本】成瀬　彰彦

【4月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………
4月12日(土)　常務理事会(東京)

【大会】……………………………………………………………
4月4日(金)～6日(日)
第5回東アジアクラブ選手権(男・女)(熊本県)

平成19年度全日本学生ハンドボール連盟　年度優秀選手

【男　子】
(GK)松本和磨(函館大)川端将一(日本大)甲斐昭人(日体大)(CP)戸賀沢和基(富士大)寺田慧(金沢大)友利彬彦(日体大)下田好孝(日本大)松信亮平(早稲田大)銘刈　淳(筑波大)前里卓実(早稲田大)村上勝久(日本大)石川　出(日体大)佐藤智仁(名城大)柏木雄作(名城大)永井健二(中部大)丸山浩嗣(中京大)斉藤宗市(関西大)國廣達郎(関西大)笠井美範(関西大)川内健矢(高松大)砂川広貢(福岡大)

【女　子】
(GK)下地ゆいの(筑波大)表寺由貴(東女体大)南　裕子(武庫川女大)(CP)宮本　梢(北星学園大)池田沙織(東北福祉大)近藤美帆(小松短大)石立真悠子(筑波大)小松史果(筑波大)山下詩織(筑波大)稲葉由衣(東女体大)張　素姫(東女体大)星野安有紀(中京女大)大城夕貴(大阪教育大)住野有梨(大阪教育大)佐野加奈絵(大阪教育大)吉田　薫(武庫川女大)荒木佳子(武庫川女大)久具利奈(愛媛女短大)村上海里(福岡大)

HAND BALL　CONTENTS　Apr.

(登録チームの購読料は登録料に含む)



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四八九号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十年三月二十六日印刷 平成二十年四月一日発行

東京都渋谷区神南一−一−一
電話 代表 〇三−三四八一−二三六一
振替 〇〇一二〇−七−一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円